

平成 2 3 年 度

高 浜 市 や き も の の 里

かわら 美術館

年 報

序

平成 23 年度高浜市やきものの里かわら美術館年報を発行いたします。東日本大震災という大きな災害が発生した年となりましたが、5 回の特別展・2 回の企画展を無事に終えることができ、ご協力いただいた関係各位には大いに感謝申し上げます。

さて、平成 23 年度の展覧会事業においては、地元三河の洋画家の作品をその収集品とともにご紹介するというユニークな展覧会「斎藤吾朗の全活動を語ろう、具展」に始まり、独特の風合いが魅力の画材クレパスを用いた著名画家たちの作品を集めた「クレパス画名作展」、夏には海外交流史を中心とした独自性をもつ博物館の収蔵品を紹介する「長崎歴史文化博物館収蔵品展」、秋には恒例の「2011 イタリア・ポローニャ国際絵本原画展」、つづいて早春には、恒例のやきものの展覧会として「第 21 回日本陶芸展」を開催いたしました。また、館蔵品を中心とした企画展としては、冬に地元作家森克徳氏をはじめとする 8 人の作家による工芸作品を紹介した「八奏工芸展」、つづいて新春には、昨年購入した民俗写真の先駆者・芳賀日出男の作品を中心とした「新収蔵品展」を開催いたしました。

教育普及文化活動事業においては、講演会、ワークショップ等の展覧会関連行事や、陶芸講座、コンサート等を、平成 23 年度も引き続き積極的に実施し、多くの方々にご参加いただきました。4 年目を迎えた正月開館では、昨年にひきつづき高浜市文化協会や瓦関連組合との連携によるコンサートや瓦の展示を行うとともに、「おもてなし」サービスの向上に努めました。

資料収集事業においては、中国・遼代の資料を中心とした瓦 6 点を購入したほか、瓦・考古・民俗資料や絵画作品の受贈により、コレクションに一層厚みを持たせることができました。

今後とも当館の運営に対しまして、相変わらぬご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成 24 年 6 月

高浜市やきものの里かわら美術館

序	1
沿革	3
建築概要	4
展覧会事業	5
1 展覧会の概要	5
2 展覧会事業報告	30
(1) 斎藤吾朗の全活動を語ろう、具展について	30
(2) クレパス画名作展について	32
(3) 長崎歴史文化博物館収蔵品展について	34
(4) 2011 イタリア・ポローニャ国際絵本原画展について	36
(5) 第21回日本陶芸展について	38
教育普及文化活動事業	40
1 展覧会関連	40
2 陶芸創作	42
(1) 陶芸創作体験	42
(2) 陶芸絵付体験	42
(3) 初級者電動ロクロ教室	42
(4) 中級者電動ロクロ教室	43
(5) 上級者電動ロクロ教室	43
(6) 半日イベント陶芸	44
(7) 鬼あかりづくり	47
3 その他の教育普及文化活動	48
(1) コンサートボランティア	48
(2) 他機関との連携	49
(3) その他	52
資料収集事業	53
1 新収品	53
(1) 考古・工芸	53
(2) 美術	53
2 館蔵資料集計表	54
3 館蔵資料貸出状況	54
美術館利用状況・組織等	55
1 美術館利用状況	55
(1) 美術館利用者数	55
(2) 展覧会別観覧者数	55
(3) 施設利用者数	55
2 組織図	56
条例・規則	57

沿革

昭和 63 年 8 月	「やきものの里構想」について住民からの陳情
平成元年 6 月	やきものの里基本構想策定 プロジェクトチーム編成
平成 2 年 3 月	やきものの里基本構想策定 第 4 次高浜市総合計画策定
平成 3 年 1 月～9 月	やきものの里建設懇談会開催（7 回開催）
平成 3 年 4 月	市長公室企画推進室を新設
平成 3 年 7 月	やきものの里「高浜」コア施設の基本・実施設計を(株)内井昭蔵建設設計事務所へ委託
平成 3 年 11 月	愛知のふるさとづくり事業に選定
平成 4 年 1 月	やきものの里「高浜」コア施設基本設計完了
平成 4 年 3 月	森前公園基本設計完了
平成 4 年 5 月	やきものの里「高浜」コア施設実施設計完了
平成 4 年 6 月	地域づくり振興事業に選定
平成 4 年 9 月	やきものの里「高浜」コア施設建設工事着工
平成 5 年 1 月～2 月	やきものの里「高浜」文化懇談会開催（2 回開催）
平成 5 年 3 月	森前公園実施設計完了
平成 5 年 4 月	市長公室やきものの里建設推進室を新設
平成 5 年 7 月	やきものの里「高浜」コア施設顧問を稲垣晋也氏（皇學館大学教授）に委嘱
平成 5 年 9 月	森前公園整備工事着工
平成 6 年 3 月	やきものの里「高浜」コア施設建設工事竣工 森前公園整備工事竣工
平成 6 年 4 月	市長公室葦文化振興課を新設 やきものの里「高浜」コア施設館長を稲垣晋也氏（皇學館大学教授）に委嘱 やきものの里「高浜」コア施設環境整備及び開館準備
平成 7 年 4 月	教育委員会へ移管 館名を高浜市やきものの里かわら美術館と正式決定
平成 7 年 10 月 7 日	開館
平成 9 年 8 月 16 日	来館者 10 万人達成
平成 10 年 2 月 27 日	博物館登録
平成 11 年 11 月 19 日	来館者 20 万人達成
平成 12 年 10 月	開館 5 周年
平成 14 年 2 月 19 日	来館者 30 万人達成
平成 14 年 4 月 1 日	生涯学習部へ移管 葦文化振興課を葦文化課に変更
平成 16 年 5 月 21 日	来館者 40 万人達成
平成 17 年 4 月 1 日	高浜市やきものの里かわら美術館長を井口喜晴氏（大正大学教授）に委嘱
平成 17 年 10 月	開館 10 周年
平成 18 年 4 月 1 日	地域協働部へ移管 葦文化課を地域文化グループに変更
平成 18 年 5 月 24 日	来館者 50 万人達成
平成 20 年 4 月 1 日	地域文化グループを文化スポーツグループに変更
平成 20 年 6 月 24 日	来館者 60 万人突破
平成 20 年 10 月 1 日	美術館運営を乃村工芸社・NTT ファシリティーズ美術館運営共同事業体による指定管理とする
平成 22 年 1 月 1 日	文化スポーツグループをこども未来部に移管
平成 22 年 3 月 28 日	来館者 70 万人突破
平成 22 年 10 月	開館 15 周年
平成 23 年 9 月 8 日	来館者 80 万人突破

やきものの里かわら美術館

敷地面積	2,802.93 m ²
建築面積	1,681.04 m ²
延床面積	4,669.48 m ²
建物構造	鉄筋コンクリート造
規 模	地上 4 階地下 1 階 1 階 1,604.43 m ² 2 階 1,345.72 m ² 3 階 981.11 m ² 4 階 131.08 m ² 地階 607.14 m ²
設 計	(株)内井昭蔵建設設計事務所
施 工	建築工事：(株)銭高組 外構工事：銭高・神谷建築共同企業体 電気設備工事：高浜・竹内共同企業体 空調設備工事：(株)大気社 給排水衛生設備工事：中設・久米・神竜共同企業体 昇降機設備工事：シンドラーエレベータ(株) ハイビジョン設備工事：(株)エヌエイチケイ名古屋ブレイズ 陶芸窯設備工事：日進機工(株) レストラン厨房設備工事：(株)松坂屋 防犯設備工事：セコム(株) 電話設備工事：高見通信工業(株) 収蔵庫設備工事：(株)銭高組 展示設備工事：ノバ工芸(株)
工 期	起工：平成 4 年 9 月 9 日 竣工：平成 6 年 3 月 25 日
総 工 費	30 億 1 千 3 百万円（平成 6 年度まで）

やきものの里森前公園

名 称	やきものの里森前公園
所 在 地	高浜市青木町九丁目 7 番地 29
公園区分	都市公園
面 積	0.42ha
設 備 等	瓦庭（波の庭）、瓦垣、和のモニュメント（創造の泉）、鬼の照明、たるま窯、噴水及びせせらぎ
設 計	(株)内井昭蔵建築設計事務所
施 工	銭高・神谷建築共同企業体 モニュメント：(株)環境美術研究所・関根伸夫
施 工 費	公園：3 億 7 百万円 景観道路：5 千 4 百万円

【森前公園イメージ】

「かわら美術館」が“船”ということで公園全体に瓦を随所にちりばめ、海のイメージを漂わせ、建物との融合を図っている。

特別展 一油彩をはじめて50年、画家・斎藤吾朗の作品と収集品一

「斎藤吾朗の全活動を語ろう、具」展

会 期 平成23年4月9日（土）～5月29日（日）

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館／中日新聞社

後 援 愛知県教育委員会／高浜市／高浜市教育委員会／高浜市観光協会／西尾市／
西尾市教育委員会／CBC／NHK プラネット中部／
NPO 法人日仏子供ヴィジョン（グラン・ルーブル・ジャポン）／名古屋鉄道株式会社

協 賛 西尾茶協同組合

会 場 ホール／展示室-1／ギャラリー

観 覧 料 高校生以上 600（480）円、中学生以下無料 ※（ ）内は20名以上の団体料金

内 容 愛知県西尾市出身の画家・斎藤吾朗（1947～）は三河地域の文化をモチーフにした作品を多数描きつづけてきた。そして彼は画家であると同時に、ひとりの収集家として「ガラクタ美術館」という個人美術館を運営していたほど、様々な品物を所持している。その中には、今日では貴重とされる資料も少なくない。
本展覧会では、斎藤吾朗の絵画作品と、彼が所持している様々なコレクションを併せて展示し、「モナ・リザ模写作品」を始め、10代の頃から現在に至るまでの活動の全貌を紹介した。

図 録 『斎藤吾朗カタログ』A5判、48頁

関連行事 (1) 講演会

4月30日（土）① 午前10時～正午 ② 午後1時30分～3時30分

内容：展覧会作家による、作品制作の秘話やこれまでの活動歴についての講演と展示室でのギャラリートーク。

講師：斎藤吾朗氏

(2) 美術館で抹茶を味わおう！

4月30日（土）午前10時～午後4時

内容：斎藤吾朗氏の出身地である西尾市は抹茶の産地ということで、西尾産の抹茶と和菓子によるお茶会を開催した。

協力：茶道宗徧流 清水昭子氏

(3) ワークショップ「油絵に挑戦！親子で肖像画を描き合おう」

5月15日（日）午後1時30分～

内容：参加者の親子が、油絵具を用いてお互いに肖像画を描き合った。

講師：斎藤吾朗氏

(4) 昭和の日ちいさなワークショップ「わりばしでえんぴつオブジェをつくる」

4月29日（金・祝）午前10時～正午、午後1時～4時に随時実施

内容：割箸を使って鉛筆のオブジェをつかった。

講師：今泉岳大（当館学芸員）

企画協力：深沢アート研究所

(5) こどもの日ちいさなワークショップ「小石にペイント！想いを込めた石文づくり！」

5月5日（木・祝）午前10時～正午、午後1時～4時に随時実施

内容：石に想いを表して人におくことを「石文^{いしぶみ}」という。小石にクレヨンや絵具を使ってペイントし石文をつくった。

講師：今泉岳大・安藤さおり（当館学芸員）

(6) ギャラリートーク

① 4月17日（日）、② 5月22日（日） 各日午後2時～

講師：今泉岳大（当館学芸員）・斎藤吾朗氏

出品目録

絵画作品				
No.	作品名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)
1	屋根の上の自画像	2007	油彩・キャンバス	41.0×31.8
2	三河の花祭 東栄町布川	1996	油彩・キャンバス	90.9×193.3
3	三河の花祭 東栄町古戸	1996	油彩・キャンバス	130.3×162.1
4	浪之花関綿絵	1997	シルクスクリーン	34.9×24.4
5	天橋立みあれ藤祭	2004	油彩・キャンバス	193.9×53.5
6	豊橋鬼祭 天狗と鬼のからかい	1997	油彩・キャンバス	61.5×42.0
7	三州鳥羽の火祭	2006	油彩・キャンバス	130.3×162.1
8	高浜のおまんと祭	1995	油彩・キャンバス	116.7×91.0
9	高浜のおまんと祭	1996	シルクスクリーン	19.5×26.1
10	古木のまわりで	1992	油彩・キャンバス	193.9×259.1
11	レッドロックキャニオン	2000	油彩・キャンバス	90.9×116.7
12	並ぶ人々	1986	シルクスクリーン	22.1×64.0
13	京都・東寺の弘法さん	2005	油彩・キャンバス	193.9×259.1
14	うどんを食べるおばあさん	1980	油彩・キャンバス	227.3×181.8
15	屋根の上の記念撮影	1977	油彩・キャンバス	227.3×181.8
16	創る人々	1985	油彩・キャンバス	193.9×259.1
17	三河の土人形	2002	シルクスクリーン	23.9×30.4
18	風に遊ぶ	2007	油彩・キャンバス	193.3×90.9
19	矢作川もの作りの史	2006	油彩・キャンバス	193.9×259.1
20	赤米伝承「三河安城にて」	1989	油彩・キャンバス	162.1×162.1
21	阿修羅婆	1990	油彩・キャンバス	193.9×259.1
22	花祭榊鬼の地固めの舞踏	2003	油彩・キャンバス	53.0×45.5
23	天橋立・台風で倒れた双龍の松から	2005	油彩・キャンバス	65.2×53.0
24	電車道	1961	油彩・キャンバス	33.3×24.2
25	家並	1961-1962	油彩・キャンバス	65.2×53.0
26	粘土山	1962	油彩・キャンバス	41.0×31.8
27	もちなげ	1968	油彩・キャンバス	130.3×162.1
28	まつり日	1971	油彩・キャンバス	130.3×162.1
29	モナ・リザ模写作品	1973	油彩・キャンバス	73.3×54.0
30	屋根の上の七五三	1975	油彩・キャンバス	227.3×181.8
31	屋根の上の記念撮影	1975	油彩・キャンバス	162.1×162.1
32	筆筒の上のおばあさん	1977	油彩・キャンバス	193.9×130.3
33	兵隊だった叔父さんの遺品	1978	油彩・キャンバス	162.1×130.3
34	わしは90歳	1978	油彩・キャンバス	227.3×181.8
35	羅漢さん	1980	油彩・キャンバス	116.7×91.0
36	三河一色大提灯祭	1981	アクリル・キャンバス	193.9×259.1
37	ゆらぐ子ども	1983	油彩・キャンバス	90.9×60.6
38	それぞれの袋	1983	油彩・キャンバス	227.3×181.8
39	らくがき富士	1984	油彩・キャンバス	162.1×162.1
40	屋根の上の汽車	1995	油彩・キャンバス	116.7×91.0
41	あしあと	1997	油彩・キャンバス	193.9×259.1
42	おばあさんのたからもの	1996	油彩・キャンバス	130.3×97.0
43	描けば描くほど	2002	油彩・キャンバス	259.1×193.9
44	邂逅の樹	1994	油彩・キャンバス	259.1×193.9
45	実録吉良さん人生劇場	2010	油彩・キャンバス	193.9×259.1

46	幸福の黄色いポストの町	2009	油彩・キャンバス	227.3×145.5
47	豊田の大花火	1995	油彩・キャンバス	91.0×72.7
48	アドルフに捧ぐ 色舟の唄	2000	油彩・キャンバス	145.5×112.1
49	炎のまわりで	1991	油彩・キャンバス	116.7×91.0
50	風に遊ぶ	2007	油彩・キャンバス	193.3×90.9
51	大須ハレの日	2010	油彩・キャンバス	116.7×91.0
52	屋根の上の自画像	1978	シルクスクリーン	15.7×10.4
53	石庭の女学生	1979	シルクスクリーン	31.2×40.2
54	屋根の上の海	1982	シルクスクリーン	27.0×24.0
55	モナリザのいるバス停	1984	シルクスクリーン	62.2×35.4
56	電柱工事 I	1983	シルクスクリーン	35.5×23.2
57	象さんに逆立ち	1985	シルクスクリーン	33.7×28.9
58	絵歌仙 夏の月の巻	1985	シルクスクリーン	22.1×63.0
59	風に吹かれて	1986	シルクスクリーン	64.2×24.5
60	屋根の上の胡蝶	1987	シルクスクリーン	47.6×32.7
61	本伝寺棟上	1988	シルクスクリーン	24.6×18.2
62	ある日の東山公園	1988	シルクスクリーン	22.7×65.1
63	三河の鬼板師	1989	シルクスクリーン	24.7×18.2
64	三州瓦 瓦磨き	1991	シルクスクリーン	23.9×30.5
65	三州瓦 だるま窯	1991	シルクスクリーン	23.9×30.5
66	登る人々（赤）	1991	シルクスクリーン	65.3×41.1
67	風の球	2000	シルクスクリーン	38.2×26.5
68	日本最東端の日の出 納沙布岬	1999	シルクスクリーン	14.5×23.8
69	あしあと	2000	シルクスクリーン	50.9×68.9
70	花の刻 根尾の淡墨桜	2001	シルクスクリーン	40.3×55.5
71	ニューヨーク グランドゼロに愛を	2002	シルクスクリーン	27.4×21.6
72	おばあさんのモナリザ	2003	シルクスクリーン	29.5×23.0
73	茶祖から西尾稻荷山茶園	2003	シルクスクリーン	27.4×32.8
74	さよなら三河線	2004	シルクスクリーン	20.0×25.8
75	高遠城址 花の宴	2007	シルクスクリーン	47.3×33.3
76	丸型ポストのある菓子店	2008	シルクスクリーン	19.9×26.9
77	半田亀崎 潮干祭	2008	シルクスクリーン	31.5×47.5
78	天橋立 籠神社みあれ藤祭	2009	シルクスクリーン	73.8×22.9
79	薔薇の乳母車	2010	シルクスクリーン	21.0×16.4
80	豊川稻荷 大祭	2010	シルクスクリーン	47.3×33.3
81	釈迦堂の匂	1988	アクリル・墨・木板	42.0×450.0
82	歌仙初風やの巻	1988	アクリル・墨・木板	42.0×450.0
83	絵本「猿神退治」の原画	2002	アクリル・和紙	43.0×81.0
84	絵本「猿神退治」の原画	2002	アクリル・和紙	56.5×47.0

収集品

No.	資料名	点数	備考
1	斎藤吾朗陶器半身像	1	斎藤吾朗氏制作
2	お面類	15	
3	相撲化粧まわし	1	斎藤吾朗氏の絵付作品
4	山車模型	1	
5	花火筒	3	
6	火祭りネコの人形	2	
7	火祭りの梯子	1	
8	ネコ衣装	1	
9	花祭の祭具	3	
10	馬関連品	11	
11	玩具（人形）	64	
12	玩具（動物・昆虫）	54	
13	海苔（箱入）	1	
14	藤壺	3	
15	カードゲームなど	4	
16	野球盤	1	

17	貝のスプーン	8	
18	鉱石の標本	1	
19	製菓器	3	
20	大田胃酸	1	
21	鍋	2	
22	ブリキの車	1	
23	古時計	3	
24	ホーロー看板	5	
25	扇風機	1	
26	昆虫模型	3	
27	植物模型	2	
28	便器	1	
29	火打石	2	
30	アイスクリーム製造器	1	
31	柏餅の葉	2	
32	押え瓦	2	
33	糸巻き器	1	
34	炭火アイロン	1	
35	手廻し洗濯機	1	
36	各種ピン類	18	
37	桜井凧	5	
38	土人形	24	
39	カメラ	3	
40	マッチ箱	93	
41	地球儀	2	
42	ランプ	5	
43	牛骨	1	
44	マトリョーシカ	1	
45	スピーカー	1	
46	釜	3	
47	脱穀機	1	
48	レコーダー	3	
49	その他名称不明骨董品	67	
50	瓦	3	
51	錨	2	
52	ベビートーカー	1	
53	蓄音機	1	
54	湯たんぼ各種	7	
55	冊子	30	斎藤吾朗氏が制作および編集に携わったもの
56	炭化したレモン	1	
57	スクラップブック	9	
58	ポスト模型	7	
59	レコード	6	
60	絵馬	20	
61	ワタ弓	2	
62	堤燈	5	
63	アフリカ置物人形	2	
64	鳥の骨格標本	1	
65	瓢箪	3	
66	帽子	1	
67	軍靴	1	
68	剥製	3	
69	炊飯器	1	
70	ガスストーブ	1	
71	照明器具	9	
72	麦わらミシン	1	
73	蒸留器	3	

74	明治期の便器	1	
75	ガス灯	3	
76	裁縫道具	1	
77	そろばん	1	
78	火鉢	2	
79	電気釜	1	
80	西尾茶の茶筒	1	
81	暦（昭和53年）	1	
82	ハエ取器	1	
83	炭火アイロン	1	
84	山羊乳瓶	3	
85	たいやき機	3	
86	トーキー文房具	1	
87	ビール	1	中身入りの缶を展示
88	幟	3	斎藤吾朗展と記載
89	顔入り石鹸	4	
90	シルク印刷のTシャツ	1	
91	シルク印刷用具と製作過程作品	11	
92	硝子絵	7	斎藤吾朗氏が制作

特別展 ー色彩の再発見・近代巨匠によるー「クレパス画名作品展」

会 期 平成23年6月11日（土）～7月27日（水）

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館／朝日新聞社

後 援 愛知県教育委員会／高浜市／高浜市教育委員会／高浜市観光協会／NHK プラネット中部／名古屋鉄道株式会社

協 力 財団法人日動美術財団／サクラアートミュージアム／株式会社サクラクレパス／株式会社ターレンスジャパン

会 場 ホール／展示室-1／ギャラリー

観 覧 料 高校生以上 600（480）円／中学生以下無料 ※（ ）内は20名以上の団体料金

内 容 優しい風合いを持つクレパスは、クレヨンとパステルを素地として、1925年に日本で発明された描画材である。誰しも手にした経験のあるこのクレパスを用い、巨匠たちは独自の絵画世界を展開している。本展では、梅原龍三郎、岡本太郎、須田国太郎、三岸節子といった文化勲章受章作家や日本芸術院会員など、戦後の洋画壇を彩った画家たちによる、昭和20年代から30年代に描かれた作品を中心に、クレパス画の名作を展示した。

図 録 『クレパス画事典』B5判、160頁（サクラアートミュージアム編・サクラクレパス出版部）

関連行事 (1) 講演会「似てるぞ！日本と西洋の巨匠」

7月10日（日）午後2時～3時30分

内容：美術史を概観し、ゴッホやゴーギャン、セザンヌ、ピカソらの作品と日本の巨匠の作品の類似を示しつつ、その理由を検証するとともに、スライドを用いて証明した。

- 講師：山田彊一氏（現代美術作家・金城学院大学非常勤講師）
- (2) ワークショップ「親子で挑戦！たのしい色いろいろ」
7月3日（日）午前10時～正午
内容：きれいな色の50色のクレパスを使い、親子で豊かな色彩経験をみがくワークショップ。
講師：清水靖子氏（サクラアートミュージアム主任学芸員）
- (3) ワークショップ「大人のためのクレパス画教室」
7月3日（日）午後1時～4時
内容：子どもころ親しんだクレパスから、今度は本格的なクレパスセットを使った大人のクレパス画に挑む。
講師：清水靖子氏（サクラアートミュージアム主任学芸員）
- (4) ワークショップ「クレパス画風の絵付け皿にチャレンジ」
6月26日（日）① 午前9時30分～正午、② 午後1時30分～4時
内容：陶芸教室と連携した、10色の陶芸用パステルを使ってパスタ皿にクレパス画風の絵を描くワークショップ。
講師：当館陶芸指導員
- (5) 海の日ちいさなワークショップ「色とりどりの魚で水族館」
7月18日（月・祝）午前10時～正午、午後1時～4時に随時実施
内容：クレパスを使って海の生きものを描き、壁の水槽（水色の紙）に貼って、にぎやかな「水族館」をつくった。
講師：金子 智・安藤さおり・今泉岳大（当館学芸員）
- (6) ギャラリートーク
① 6月19日（日）、② 7月16日（土）各日午後2時～
講師：金子 智（当館学芸員）

出品目録

近代巨匠のクレパス画				
No.	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)
1	山本 鼎	江の浦風景	1934年	49.7×59.5
2	山本 鼎	西瓜	1930年代	19.6×26.6
3	三岸 節子	花	1940年頃	37.3×27.0
4	三岸 節子	パリの街角（プラス・コントロール）	1955-56年	33.0×42.0
5	矢崎 千代二	夜景	1902年	24.5×33.0
6	朝井 閑右衛門	静物	1950-60年代	38.0×56.3
7	朝井 閑右衛門	顔	1950-60年代	32.0×27.4
8	足立 源一郎	奥日光湯元にて	1950-60年代	22.3×27.6
9	有島 生馬	門	1950-60年代	20.0×27.5
10	有島 生馬	海	1950-60年代	31.4×47.0
11	石井 柏亭	踊り子	1950年	50.1×34.3
12	石川 滋彦	パリの雪	1950-60年代	27.0×35.7
13	伊勢 正義	婦人像	1950-60年代	36.2×26.0
14	伊藤 継郎	子ども	1950-60年代	45.5×38.0
15	伊藤 悌三	少女	1950-60年代	54.6×38.6
16	伊藤 廉	鳩とベコニヤ	1950-60年代	25.6×35.8
17	猪熊 弦一郎	娘と猫	1950-60年代	54.6×39.7
18	猪熊 弦一郎	魚と二人	1950-60年代	54.2×39.3
19	伊原 宇三郎	アトリエ	1950-60年代	47.4×36.7
20	梅原 龍三郎	人物	1950-60年代	26.9×19.0
21	梅原 龍三郎	浅間山日没	1950年	21.8×29.8
22	大河内 信敬	静物	1950-60年代	50.3×64.1
23	大沢 昌助	風景	1950-60年代	39.2×51.9
24	大沢 昌助	子ども	1950-60年代	36.8×25.7

25	岡 鹿之助	鉄線	1950-60年代	25.4×34.8
26	岡本 太郎	鳥と太陽	1950-60年代	35.5×25.3
27	岡本 太郎	虫	1950-60年代	38.9×55.4
28	小川 マリ	静物	1950-60年代	25.9×35.9
29	荻 太郎	無題	1950-60年代	40.9×31.7
30	小山田 二郎	婦人像	1950-60年代	35.4×24.8
31	鴨居 玲	裸婦	1980年	81.0×62.0
32	加山 四郎	ひまわり	1950年	27.0×38.0
33	加山 又造	薫風	1950-60年代	31.0×23.2
34	川口 軌外	風景	1950-60年代	27.1×22.3
35	川口 軌外	トマト	1950-60年代	27.3×38.5
36	川島 理一郎	洋蘭	1950-60年代	41.2×31.1
37	木下 孝則	裸婦	1950-60年代	46.5×35.3
38	木下 義謙	バラ	1950-60年代	43.8×30.4
39	木村 忠太	風景	制作年不詳	50.0×65.0
40	清原 啓一	薔薇	2006年	45.5×38.0
41	熊谷 守一	裸婦	1950-60年代	28.6×37.2
42	倉田 三郎	バルセロナ	1950-60年代	32.0×40.7
43	栗原 信	水郷土浦	1950-60年代	33.4×48.8
44	小磯 良平	静物とモデル	1950-60年代	48.4×63.4
45	小磯 良平	婦人像	1950-60年代	40.0×31.4
46	小糸 源太郎	風景	1950-60年代	37.8×45.2
47	小糸 源太郎	ザクロ	1950-60年代	36.5×41.6
48	國領 経郎	魚	1950-60年代	26.8×37.8
49	小林 和作	伯耆大仙の秋	1950-60年代	34.7×54.6
50	斉藤 三郎	娘グローリア	1980年頃	41.0×31.8
51	佐伯 米子	南仏風景	1950-60年代	27.1×38.0
52	佐藤 敬	金魚	1950-60年代	36.4×25.7
53	佐野 繁次郎	海	1950-60年代	27.0×38.6
54	芝田 米三	実り讃歌	2006年	49.0×40.0
55	鈴木 信太郎	長崎風景	1950-60年代	27.4×38.7
56	鈴木 信太郎	りんご	1950-60年代	25.7×39.1
57	鈴木 千久馬	バラ	1950-60年代	35.6×26.0
58	須田 国太郎	紀州矢櫃風景	1950-60年代	35.9×52.0
59	須田 国太郎	マミジロとモクゲ	1950-60年代	36.8×25.4
60	須田 剋太	童子	1950-60年代	56.5×44.1
61	須田 剋太	作品	1950-60年代	45.5×38.3
62	高塚 省吾	ロック歌手ミーナ	2006年	55.0×37.5
63	高島 達四郎	伊太利アッシジ風景	1950-60年代	26.8×38.2
64	高島 達四郎	風景	1950-60年代	22.0×24.5
65	田崎 廣助	阿蘇山の中秋	1950-60年代	26.0×37.7
66	田崎 廣助	桜島風景	1950-60年代	29.5×40.8
67	田中 忠雄	キリスト像	1950-60年代	41.5×32.1
68	田村 一男	冬のおか	1970年頃	40.0×31.0
69	田村 孝之介	婦人	1950-60年代	35.7×25.7
70	鳥海 青児	皿といちじく	1950-60年代	26.5×37.2
71	鳥海 青児	黄色い人	1950-60年代	29.7×38.0
72	辻 永	早春	1950-60年代	24.6×33.8
73	寺内 萬治郎	緑衣の婦人像	1950-60年代	46.2×34.0
74	寺田 竹雄	少女	1950-60年代	24.1×17.4
75	寺田 政明	秋の日	1951年	25.9×35.7
76	寺田 政明	夢	1950-60年代	44.2×31.4
77	利根山 光人	家族	1950-60年代	53.2×38.1
78	仲田 好江	バラ	1951年	38.5×54.9
79	中野 和高	風景	1950-60年代	25.7×35.4
80	中村 研一	いがぐり	1950-60年代	27.0×34.7

81	中村 善策	北アルプスの新緑	1950-60年代	38.0×53.8
82	中村 善策	山湖の秋	1951年	33.3×23.6
83	中山 巍	顔	1950-60年代	36.5×28.4
84	鍋井 克之	秋果	1950-60年代	37.7×53.7
85	成井 弘	ヨット	1950-60年代	37.3×53.0
86	難波田 龍起	泉	1958年	27.0×38.2
87	西村 愿定	牛	1950-60年代	36.5×48.9
88	野口 弥太郎	上の山の風景	1950-60年代	23.5×31.5
89	林 武	花	1950-60年代	33.5×24.2
90	藤川 栄子	アネモネ	1950-60年代	40.2×31.7
91	藤本 東一良	桜島	1978年	31.8×41.0
92	三雲 祥之助	顔	1950-60年代	28.6×21.8
93	耳野 卯三郎	少女	1950-60年代	38.1×28.7
94	宮田 重雄	シャンゼリゼ	1950-60年代	31.9×41.2
95	宮永 岳彦	人物	1950-60年代	56.5×38.1
96	宮本 三郎	バレリーナ	1956年	50.1×32.7
97	村井 正誠	コラージュ	1950-60年代	54.6×78.5
98	村井 正誠	踊る人	1950-60年代	47.3×36.1
99	森田 元子	藤椅子の女	1950-60年代	39.3×27.2
100	矢島 堅土	画室	1950-60年代	35.6×26.0
101	山口 薫	牛	1950-60年代	31.6×40.9
102	山下 清	花火	1950-60年代	54.2×38.3
103	山下 清	花	1950-60年代	38.2×35.2
104	脇田 和	小ども	1951年	40.5×31.4
105	脇田 和	青い頭巾	1950-60年代	35.3×25.2
現在活躍中の作家のクレパス画				
106	天春 永次	アネモネ・ミモザ	2006年	45.5×38.0
107	五百住 乙人	ミモザ	2006年	32.0×41.0
108	石垣 定哉	モンパルナスの夜	2006年	44.0×60.0
109	稲垣 考二	横顔	2006年	42.0×32.0
110	井上 悟	カゾク	2009年	45.5×38.0
111	今井 信吾	花のある卓	2006年	46.0×38.0
112	入江 観	水辺の樹	2006年	45.5×39.0
113	上 尚司	顔	2006年	41.0×31.8
114	栄永 大治良	ガス工場	1950-60年代	37.9×54.0
115	遠藤 彰子	遠い日	2006年	42.0×30.0
116	大津 英敏	七里ガ浜からの富士	2006年	37.0×44.5
117	大沼 映夫	格子縞のカーテンと薔薇	2006年	48.0×36.5
118	奥谷 博	Gatta 原画	1993年	35.3×51.2
119	織田 廣喜	少女	2006年	45.0×37.0
120	筧 本生	女性	2006年	51.0×36.0
121	笠井 誠一	カラー	2006年	46.0×38.0
122	絹谷 幸二	春風	2006年	24.0×19.5
123	黒沢 信男	白川郷雪景（明善寺）	2006年	24.0×33.5
124	小杉 小二郎	三色すみれと野の花	2006年	51.5×36.5
125	齊 正機	青梅ヲ皿に	2010年	32.0×32.0
126	齋藤 研	風景	2006年	36.0×50.0
127	桜井 孝美	浜名湖燦燦（大草山より）	2006年	38.5×45.5
128	佐々木 豊	アトリエにて	2006年	38.5×45.5
129	佐藤 泰生	花	2006年	53.0×45.0
130	島田 鮎子	花ごよみ	2006年	40.5×31.5
131	島田 章三	公園木立	2006年	36.5×46.5
132	高田 明義	淡衣	2009年	55.0×42.0
133	田村 能里子	風の奏	2006年	46.5×53.0
134	歳嶋 洋一朗	ブーゲンビリアの小路 （スペイン・カダケス）	2006年	44.0×31.0
135	中西 勝	青い太陽	1950-60年代	38.0×54.0

136	中根 寛	モレ風景	2006年	33.3×45.5
137	開 光市	人物	2006年	38.0×54.0
138	福本 章	林檎一つ	2006年	41.0×33.0
139	舟越 桂	習作	2002年	39.0×30.0
140	A. ブラジリエ	青い乗馬	2006年	38.5×57.0
141	N. ボッテ	静物	2006年	94.0×34.5
142	堀 研	黒い海	2006年	53.0×45.5
143	松井 ヨシアキ	モンパルナスのC a f e	2006年	51.5×36.5
144	松樹 路人	地平の肖像	2006年	45.0×37.0
145	森本 草介	ぶどう	2006年	17.5×13.5
146	山下 充	夜明けの不二	2006年	38.0×45.5
147	山村 博男	ファラオ	2010年	65.0×50.0
148	山本 貞	風景	2006年	40.0×45.5
149	山本 文彦	静	制作年不詳	37.5×27.4
150	山本 文彦	花	2006年	37.5×54.0
151	吉川 龍	虹色の森	2009年	45.5×38.0
152	P. ルシュール	静物	2006年	21.0×29.5
153	渡邊 榮一	小さな王國 〈クレタ島の砂丘は、恐らく、ミノタ ウロスの迷宮に続いているのだ。〉	2008年	45.5×38.0

特別展 長崎歴史文化博物館収蔵品展－「鎖国」の中の輝き、長崎の^{すい}粋をみる－

会 期 平成23年8月6日（土）～9月25日（日）

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館／朝日新聞社

後 援 愛知県教育委員会／高浜市／高浜市教育委員会／高浜市観光協会／
NHKプラネット中部／名古屋鉄道株式会社

協 力 長崎県／長崎市／長崎歴史文化博物館

会 場 展示室－1、ギャラリー／展示室－2

観 覧 料 高校生以上600（480）円、中学生以下無料 ※（ ）内は20名以上の団体料金

内 容 「鎖国」の時代といわれる江戸時代、しかし実際には日本も東アジアの交流ネットワークの中にあり、場所と相手を限定はするものの、外交や貿易、文化の交流が行われていた。その中で長崎は、日本において唯一、アジアだけでなく西洋にも開かれた国際貿易都市として、日本と世界を結ぶ重要な役割を果たした。
本展では、長崎歴史文化博物館が収蔵する歴史資料や美術工芸品を展示し、海外交流にまつわる様々な文物の一端を紹介した。また、舶来の技術や風物が反映され、日本人の目を楽しませた長崎ならではの工芸品をお楽しみいただいた。

図 録 『長崎歴史文化博物館公式ガイドブック』B5判、52頁（長崎歴史文化博物館編集・発行）

関連行事 (1) 講演会

① 8月27日（土）午後1時30分～3時

演題：「海外交流が生み出した、長崎の美術工芸の魅力」

内容：近世長崎の美術工芸について、歴史的な背景も織り交ぜながらお話いただいた。

講師：植松有希氏（長崎歴史文化博物館研究員）

② 9月4日（日）午後1時30分～3時

演題：「海外交流史のなかの近世長崎」

内容：東アジア各地の人びとがひしめいていた長崎の町について、海外交流史の観点からお話いただいた。

講師：池内 敏氏（名古屋大学文学部教授）

③ 9月11日（日）午後1時30分～3時

演題：「海を渡った仏たちー長崎地方の仏教文化ー」

内容：古代から近世までの、長崎地方ならではの仏教文化についてお話した。

講師：井口喜晴（当館館長）

(2) ワークショップ「親子でキラキラ☆ガラス玉づくり」

8月20日（土）午後2時～4時

内容：バーナーでガラス棒を溶かして、色とりどりのガラス玉を作った。

講師：金子 智（当館学芸員）

(3) 陶芸ワークショップ「刷毛目^{はけめ}で陶芸を深めよう」

8月21日（日）午前9時30分～午後4時

内容：江戸時代中頃に長崎で焼かれた「現川焼^{うつがわ}」風の刷毛目を施したうつわを作った。

講師：当館陶芸指導員

(4) ちいさなワークショップ「ステンドグラス風の小さなかざりをつくろう」

9月19日（月・祝）午前10時～正午、午後1時～4時に随時実施

内容：透明フィルムに色を塗って厚紙で枠を作り、窓にかざすとステンドグラスのように光を通す小さなかざりに仕上げた。

講師：安藤さおり・金子 智・今泉岳大（当館学芸員）

(5) 音楽ワークショップ

①「不思議な電子楽器、テルミン・マトリヨミンの空間へようこそ☆」

8月13日（土）午前11時～午後3時に随時実施

内容：コンサートボランティアの方によるワークショップ。テルミン・マトリヨミンによる演奏を聴いたり、簡単なレクチャーを受けながら実際に演奏を体験したりした。

講師：富川貴代氏、矢田英明氏、ぶき一な西斑氏、hinata氏

②「体験しようマリリンバ！！」

8月14日（日）午後2時～4時

内容：コンサートボランティアの方による演奏とワークショップ。おおきな木琴マリリンバと一緒にいろんな楽器を使って演奏したり、クイズをしたり、楽しみながらマリリンバについて理解を深めた。

講師：神谷紘実氏

(6) コンサート「塗善祥^{とぜんしょう}が奏でる中国琵琶～長崎日中慕情～」

9月10日（土）① 午後1時30分～、② 午後3時～ 各回約30分

内容：中国との関わりが深い長崎にちなんだ中国琵琶のコンサート。

演奏：塗善祥氏（上海音楽学院客座教授）

(7) 長崎原爆忌、平和への祈りを込めた朗読会

8月9日（火）午前11時～

内容：長崎の原爆をテーマにつくられた絵本や詩の朗読とピアノ演奏。

朗読：長谷川のぞ美氏、松本 仁氏、山田千恵子氏

演奏：石川朋子氏

(8) ギャラリートーク

① 8月28日（日）、② 9月23日（金・祝） 各日午後2時～

講師：今泉岳大（当館学芸員）

出品目録

No.	資料名	材質	年代	作者等	寸法 (cm)
プロローグ					
1	世界図	銅版・紙	1720年	ホーマン	50.5×59.4
2	日本図	銅版・紙	1750年	ゾイター	51.5×60.6
3	肥前長崎図	色刷・木版	1801年	今見屋板	39.7×63.1
4	長崎港図	絹本着色	江戸中期	川原香山	36×47
第1章 長崎とオランダ貿易－賑わいの長崎－					
5	蘭船図	紙本着色	江戸後期		50.7×61.3
6	出島阿蘭陀屋舗景図	墨刷・木版	江戸中期 (寛政頃)	豊嶋屋文治右衛門板	57.3×41.6 (マット枠)
7	ギヤマン蓋付高壺	ガラス	18～19世紀		口径縦10.6×横16.0× 底径縦10.0×横10.0 (蓋)口径9.0×高13.0
8	紅色ギヤマン坏	ガラス	19世紀か		口径5.3×底径6.3×高 9.8
9	ギヤマン酒瓶 (3点)	ガラス	18～19世紀		口径4.0×底径5.3×高 18.5(蓋)底径1.2×高8.2
10	オランダ渡髭徳利	陶器	18～19世紀		4.0×14.0×19.5
11	イギリス製ウイスキー瓶	陶器	18～19世紀	グラスゴ、 ポート・ダンバス窯	2.8×8.8×23.0
12	オランダ渡赤に緑絵汽車図中皿	磁器	18～19世紀		23.5×13.8×2.3
13	オランダ渡藍に色絵花卉図中皿	磁器	18～19世紀		24.6×14.5×5.0
14	オランダ焼黄に緑絵花卉文中皿	磁器	18～19世紀	マーストレヒト、 ペトウルス・レグウ ート窯 (オランダ)	25.0×11.8×4.3
15	金唐草花籠文箱	木地・牛皮	江戸時代		19.5×25.0×37.5
16	金唐草花唐草文たばこ入れ	牛皮	江戸時代		10.0×15.5
17	青貝細工大キャビネット	木地・漆	江戸後期～ 末期		縦136.0×横122.2× 高さ30.0
18	伊万里焼染付芙蓉手VOC皿 (参考展示)	磁器	江戸後期		径36.0
19	伊万里焼染錦花卉文髭皿 (参考展示)	磁器	江戸後期		径25.0
20	波佐見焼染付コンブラ瓶	磁器	江戸後期		口径3.3×最大径9.6× 底径7.0×高18.0
21	犯科帳《重要文化財》	紙	1771(明和8) 1779(安永8)	長崎奉行所	32.0×22.6×6.3
第2章 長崎と中国貿易－暮らしに溶け込んだ中国文化－					
22	唐船図	色刷・木版	江戸後期		28.2×18.8
23	五彩花鳥図鉢	磁器	17～19世紀		13.0×19.0×7.0×13.5× 6.0
24	黄釉魚文小皿 (4点)	磁器	17～19世紀		8.0×10.0×1.3
25	青花十二支小皿 (5点)	磁器	17～19世紀		11.5×7.0×3.0
26	青花唐草文中皿 (3点)	磁器	17～19世紀		18.8×11.3×3.0
27	青花仙人図鉢	磁器	17～19世紀		20.0×7.8×8.8
28	青花羊図鉢	磁器	17～19世紀		19.0×8.0×8.0
29	青花草花文碗	磁器	17～19世紀		9.7×4.0×4.8
30	青花梅図染付茶壺	磁器	17～19世紀		5.7×8.3×13.0
31	鉄釉水差	陶器	17～19世紀		6.8×7.5×10.5 (蓋)4.5×4.5
32	端溪硯石	石	17～19世紀		20.0×15.0×5.5
33	緑釉筆架	陶器	17～19世紀		8.5×15.0×3.0
34	白玉蓮華彫飾	石	17～19世紀		3.5×11.5×0.7
35	白玉丸型人形彫飾	石	17～19世紀		直径5.5×厚0.5
36	玉花立	石	17～19世紀		5.0×5.0×高10.8

37	青玉置物	石	17~19世紀		3.0×7.0×2.5
38	朱泥急須	陶器	17~19世紀		総高 5.0×口径 3.3
39	翡翠柘榴形蓋物	石	17~19世紀		17.0×16.0×5.5 (蓋) 18.0×18.0×5.0 (台座) 12.0×15.0×8.0
40	青花花卉文鉢	磁器	17~19世紀		2.9×11.5×12.0
41	青花桃図鉢	磁器	17~19世紀		22.0×9.0×10.5
42	青花松竹梅図蓋付碗	磁器	17~19世紀		11.0×4.3×6.0 (蓋) 10.3×4.0×3.0
43	青花壽字文小皿	磁器	17~19世紀		11.0×6.0×2.2
44	青花神獸文中皿	磁器	17~19世紀		15.8×8.3×3.0
45	青磁燭台(3点)	磁器	17~19世紀		8.0×14.5×15.5
46	青磁花立	磁器	17~19世紀		6.3×6.5×14.0
47	青磁香炉	磁器	17~19世紀		11.0×9.5
48	青花唐草文盤	磁器	明・宣徳期 (1426-1435)		口径 40.2×高さ 7.6
49	七宝焼牡丹唐草文小皿(6点)	銅	17~19世紀		7.6×9.3×5.5×7.0×1.5
50	堤藍	竹地・漆	17~19世紀		23.0×23.0×34.0
51	唐物青貝細工唐子図入小箱	木地・漆	17~19世紀		8.5×8.5×16.5
52	金彩唐子絵入丸盆	木地・漆	17~19世紀		直径 38.5×高 6.5
53	御神事踊笠鉾番組	紙	明治26年	田川老人/画	24.2×16.0
54	諏訪社御紋章打出簪	銀	江戸後期		長 24.0×巾 5.5×厚 0.1
55	梶葉紋軒丸瓦	瓦	江戸時代		径 10.3×厚 3.1
56	刺繍入獅子舞唐子衣裳	絹、銀ほか	江戸後期		48×44
57	東古川町「川船」飾り船頭衣裳	絹、銀ほか	平成9年	嘉勢照太	上衣 95.0×45.0 下衣 45.5×55.0
58	文字文「聖」軒丸瓦	瓦	江戸時代		径 16.8×厚 3.8
59	文字文「興」軒丸瓦	瓦	江戸時代		径 14.1×厚 3.1
60	文字文「壽」軒丸瓦	瓦	江戸時代		径 16.6×厚 3.3
61	文字文「壽」軒丸瓦	瓦	江戸時代		径 14.2×厚 3.2
62	文字文「福」鳥伏間瓦	瓦	江戸時代		径 19.6×厚 6.5
63	文字文「光緒癸巳年建」軒棧瓦	瓦	明治時代		長 32.1×幅 32.1× 厚 10.0
第3章 肥前長崎の美術工芸—やきものを中心に—					
64	中野焼染付山水図水指	陶器	江戸前期		胴径 18.5×高台径 13.0× 高 19.0
65	中野焼草花文瓶	陶器	江戸前期		胴幅 8.5×高 14.2
66	平戸焼白磁壺	磁器	江戸前期		口径 13.7×最大径 22.7× 高 24.5
67	古平戸焼染付梅白頭翁文皿 (5点)	磁器	江戸中期		口径 19.8×高 2.7
68	平戸焼染付雲堂手台鉢	磁器	江戸中期		口径 19.6×脚 1.5
69	平戸焼染付龍細工形瓶	磁器	江戸後期		口径 2.8×胴径/最大径 16.8×底径/高台径 10.0 ×高 32.4
70	平戸焼染付布袋唐子文水指	磁器	江戸末期		径 15.0×高 18.0
71	平戸焼瑠璃釉金彩松浦家紋入碗	磁器	江戸後期		口径 15.5×底径/高台径 6.1×高 7.7
72	平戸焼白磁栗鼠冬瓜形香炉	磁器	江戸後期		幅 13.5×高 11.3
73	三川内焼染付梅花形文鎮	磁器	江戸後期		胴径/最大径 17.4×6.5 ×高 2.7
74	三川内焼染付菊花形文鎮	磁器	江戸後期		胴径/最大径 12.7×5.1 ×高 1.7
75	三川内焼染付菊文貼付急須	磁器	江戸後期		口径 5.0×胴径/最大径 18.2×11.4×底径/高台 径 6.9×総高 8.6

76	三川内焼染付梅鶴図酒瓶	磁器	江戸後期		幅 21.0×高 32.7
77	三川内焼染付竜胆図煎茶碗 (5点)	磁器	江戸末期		口径 9.0×高台径 3.0× 高 6.5
78	波佐見焼青磁彫牡丹文鉢	磁器	江戸前期		口径 36.2×高 6.0
79	波佐見焼青磁染付雁海藻蛤文 三足付輪花皿	磁器	江戸中期		口径 22.5×高 6.0
80	波佐見焼青磁陰刻笹柳紗綾文 三足付香炉	磁器	江戸中期		口径 19.5×最大径 20.2× 高 15.1×総高 21.2
81	波佐見焼染付蛸唐草文瓶	磁器	江戸後期		口径 1.6×最大径 5.7× 底径 3.8×高 13.4
82	波佐見焼染付寿字文沈香壺	磁器	江戸後期		口径 11.0×最大径 19.5× 高 26.1
83	波佐見焼染付松鶴文德利	磁器	江戸後期		口径 4.5×最大径 16.5× 高 28.5
84	波佐見焼染付花唐草文 くらわんか碗	磁器	江戸後期		口径 11.7×底径 4.7× 高 6.8
85	波佐見焼染付花唐草文 くらわんか碗	磁器	江戸後期		口径 11.7×底径 3.7× 高 4.6
86	亀山焼染付桐二鳳凰大鉢	磁器	江戸後期		口径 39.5×糸底径 16.5× 高 9.5
87	亀山焼染付梅樹文爛瓶	陶器	1861(万延2)		口径 2.8×底径 5.0× 高 14.5
88	亀山焼染付献上唐子文碗 (5点)	磁器	江戸後期		口径 8.5×糸底径 3.5× 高 4.5
89	亀山焼染付雲鶴文象耳付水瓶	磁器	江戸後期		口径 17.5×底径 28.0×高 39.0
90	亀山焼染付山水文手焙	磁器	江戸後期		高 14.3
91	亀山焼古染付写牡丹唐草文大鉢	磁器	江戸後期		口径 25.3×糸底径 13.0× 高 11.5
92	現川焼刷毛目下藤花文菓子皿	陶器	江戸中期		口径 18.6×糸底径 10.6× 高 4.0
93	現川焼刷毛目向付 (5点)	陶器	江戸中期		口径縦 15.0×横 18.2×糸 底径 8.3×高 2.7
94	現川焼白釉タイル	陶器	明治		縦 18.2×横 18.2×厚 3.0
95	現川焼灰釉タイル	陶器	明治		縦 18.2×横 18.2×厚 3.0
96	現川焼刷毛目芦舟図丸皿	陶器	江戸中期		口径 19.5×糸底径 8.0× 高 6.0
97	現川焼刷毛目銀杏文蓋付碗	陶器	江戸中期		口径 11.5×高さ 6.0
98	長与焼三彩蓋付碗 (5点)	磁器	江戸後期		口径 11.0×糸底径 4.6× 高 7.0 (蓋) 口径 10.2× 摘径 4.6×高 3.7
99	長与焼染付唐子図瓢形德利	磁器	江戸後期		高 21.5
100	鵬ヶ崎焼風炉	陶器	江戸中期		径 12.7×高さ 14.5
101	鵬ヶ崎焼詩文入菓子鉢	陶器	江戸後期		口径 15.8×最大径 16.0× 高 7.5
102	対州焼灰釉茶碗	陶器	江戸時代		口径 13.6×底径 5.7× 高 7.5
103	対州焼立鶴文御本水指	陶器	江戸中期		口径 15.0×底径 9.0× 高 16.0
104	青貝細工花鳥図重箱	木地・漆	江戸後期		縦 15.0×横 15.0×高 21.0
105	青貝細工紅梅図椀	木地・漆	江戸後期		口径 12.8×底径 4.6× 高 6.5
106	青貝細工漆茶托	木地・漆	明治		直径 11.2×高 2.0
107	伊万里焼色絵花鳥図大皿 (参考展示)	磁器	江戸後期		径 56.0
108	伊万里焼赤絵花卉文鉢 (5点)	磁器	江戸後期		口径 15.0×糸底径 7.5× 高 5.0
109	出世鯉香炉	銅	江戸後期	幸野徳栄	高 32.0

110	長崎硝子水差	ガラス	江戸後期	口径 4.5×底径 8.5× 高 19.0 (蓋) 底径 6.3×高 7.0
111	長崎硝子爛瓶	ガラス	江戸後期	口径 3.0×底径 6.0× 高 6.5
112	長崎硝子盃	ガラス	江戸後期	口径 3.2×底径 6.5× 高 18.5
113	長崎硝子鯉掛花生	ガラス	江戸後期	口径 4.3×高 21.0
114	ガラス絵 和蘭船のある外国 風景	ガラス 着色	江戸後期	24.0×60.0
115	ガラス絵 牡丹と雉子図	ガラス 着色	江戸後期	30.0×35.0
116	ガラス絵 花魁図	ガラス 着色	江戸後期	27.0×33.0
117	鼈甲櫛	べっ甲	江戸後期	幅 9.2×高 4.5
118	鼈甲簪	べっ甲	江戸後期	長 12.3×幅 0.8
119	鼈甲前挿	べっ甲	江戸後期	長 13.7
120	鼈甲簪	べっ甲	江戸後期	長 19.0×最大幅 6.0× 高 2.4
121	文字文「羅城門」軒丸瓦	瓦	年代未詳	径 20.1

特別展「2011 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

会 期 平成 23 年 10 月 1 日（土）～11 月 6 日（日）

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館／中日新聞社／日本国際児童図書評議会（JBBY）

後 援 愛知県教育委員会／高浜市／高浜市教育委員会／高浜市観光協会／NHK プラネット中部
／
名古屋鉄道株式会社

会 場 ホール／展示室－1、ギャラリー

観 覧 料 高校生以上 600 円／中学生以下無料 ※（ ）内は 20 名以上の団体料金

内 容 ボローニャ国際絵本原画展は、毎年イタリアのボローニャ市で行われている絵本原画のコンクールに入選した作品を紹介する展覧会で、子どもたちにより質の高い絵本を提供することを目的に開催されている。かわら美術館では 1999 年から隔年で国内巡回館として参加しており、今回で 7 回目の開催となった。

図 録 A4 判変形、192 頁、日本国際児童図書評議会（JBBY）刊

関連行事 (1) ワークショップ「蛇腹折りの本づくり」

10 月 23 日（日）午後 1 時 30 分～4 時 30 分

内容：糊を使わずに一枚の紙を折るだけでできる本と、開いて閉じて異なるページが見え隠れする不思議な本をつくった。

講師：都筑晶絵氏（製本作家）

(2) 音楽ワークショップ「大人のためのオカリナ講座」

10 月 8 日（土）午後 2 時～4 時

内容：コンサートボランティアの方によるワークショップ。実際にオカリナに触れ、講師の指導のもと音を出し、曲を演奏できるように練習した。

講師：高原陽子氏（ライリッシュ・オカリナ連盟）

(3) 美術館で聞く秋の絵本読み聞かせ

10月16日(日) ① 午前11時～ ② 午後2時30分～

内容：秋の絵本展にちなんで、絵本の読み聞かせを行った。

講師：高浜市立図書館えほんの森読書アドバイザーの方々

(4) ちいさなワークショップ「体育の日・紙飛行機選手権 in かわら美術館」

10月10日(月・祝) 午前10時～正午、午後2時～4時に随時開催

内容：さまざまな紙飛行機を作り公園で飛ばし、飛距離に応じて簡単な景品を贈呈した。

講師：今泉岳大・金子 智(当館学芸員)

(5) 文化の日「美術館探検ツアー」

11月3日(木・祝) ① 午前10時～ ② 午後1時～ ③ 午後3時～

内容：普段は入ることのできない美術館のバックヤード(作品搬入口、館長室や学芸員研究室など)を職員が案内した。

講師：今泉岳大・安藤さおり・金子 智(当館学芸員)

(6) ギャラリートーク

① 10月16日(日)、② 11月6日(日) 各日午後1時30分～

講師：今泉岳大(当館学芸員)

出品目録

No.	作家名	国籍	作品名	額寸	額数
1	ジェラルディーヌ・アリブー	フランス	ライオンを見かけたかい?	全紙	3
2	ステファン・オードワン	フランス	グリーン・ゾーン	全紙	5
3	カテリーナ・バルディ	イタリア	イタリア人	全紙	2
4	アニエーゼ・バルツィ	イタリア	迷子になりませんように	全紙	3
5	エマニュエル・バスチャン	フランス	家と世界	全紙	3
6	シルヴィア・ポロニエージ	イタリア	ふたつのいのち	全紙	4
7	オスカー・ボルトン・グリーン	イギリス	くちばしの本	全紙	3
8	アナ・ポテザテュ	ルーマニア	ボクサー	全紙	3
9	ラスムス・ブラインホイ	デンマーク	おにいちゃんとさんぽに行ったよ	全紙	5
10	ベルナルド・カルヴァーリョ	ポルトガル	お庭の本	全紙	3
11	ジャン・ジャーミン	台湾	城隍神の祭り	全紙	3
12	チェン・インファン	台湾	ペットを飼ってもいい?	全紙	2
13	カミーユ・シュヴリヨン	フランス	好奇心	全紙	3
14	テレーザ・コルテス	ポルトガル	満ち潮	全紙	2
15	アンヌ・クラエ	ベルギー	スージーがわらった	全紙	2
16	ゾーニャ・ダノウスキー	ドイツ	紅葉の季節が来るまえに	全紙	3
17	ユーディット・ドレーフス	ドイツ	ベルリンの絵本	全紙	3
18	マグリ・デュラン	フランス	ある出会いの記憶	全紙	1
19	マルジャーナ・ファルマーニー	イラン	すべり台であそぼう	全紙	3
20	藤本 将	日本	ゾウさんゾウさんウサギさん	全紙	4
21	ペラ・ジナルド	スペイン	うちで食べていたもの	全紙	3
22	イングリッド・ゴドン	ベルギー	まだ遠いの?	全紙	5
23	はぎの ちなつ	日本	あぶくのような ひとりごと	全紙	1
24	ホン・ジヘ	韓国	ゴーツクバリさんのコレクション	全紙	5
25	マルタ・イオリーオ	イタリア	もういちど、カリフォルニア	全紙	4
26	伊藤 亜矢美	日本	おざぶちゃん	全紙	3
27	鎌田 光代	日本	そよ風	全紙	3
28	ラーシーン・ヘイリーエ	イラン	モンスターと自転車	全紙	3

29	ニロボン・キットクライラート	タイ	スペインのことばとアジアのモノ	全紙	1
30	キム・ユ	韓国	動物学校集合写真	全紙	5
31	久保 貴之	日本	窓を届けに	全紙	3
32	桑田 まゆこ	日本	森のともだち	全紙	3
33	イザベッラ・ラパーテ	イタリア	チャーリー・チャップリン	全紙	3
34	ソレン・ラルニコル	フランス	冬の夜	全紙	3
35	ホセ・マリア・レマ・デ・パブロ	スペイン	ぼくの職場	全紙	3
36	スリーズ・ロペーズ	フランス	男の子たちが夢中になっているものは？	全紙	3
37	槇下 晶	日本	アミューズメントミュージアム	全紙	3
38	ベアトリス・マルティン・テルセーニョ	スペイン	家、家、家	全紙	5
39	的場 カヨ	日本	こぶたのハミング	全紙	1
40	クリストフ・メルラン	フランス	マカダム・ワンワン	全紙	3
41	パトリシア・メトーラ	スペイン	しあわせなおひめさま	全紙	2
42	デボラ・モスコニー	イタリア	お金、愛、空にでもなく	全紙	3
43	ムナカタ ナオミ	日本	ぼくはほんについてない	全紙	3
44	長嶺 斉	日本	りゅうのおくりもの	全紙	3
45	ユーリア・ノイハウス	ドイツ	わたしの聖人ギャラリー	全紙	2
46	オ・ジョンテク	韓国	甘い水のわく峠	全紙	3
47	オ・スンヒ	韓国	ワン博士とアヒルのボルミ	全紙	3
48	ガブリエル・パチェコ	メキシコ	4ひきの友だち	全紙	3
49	クラウディア・パルマルッチ	イタリア	2984	全紙	5
50	パク・ジョンワン	韓国	おやすみなさい、ネズミの子	全紙	2
51	パツシャ・タマーシュ	ハンガリー	カゲロウ	全紙	2
52	ダリア・ベトリッリ	イタリア	ひみつの庭であそんだら	全紙	3
53	ダビッド・ピントール	スペイン	すぐにねむりこむ子どものおはなし	全紙	3
54	チェチリア・ラミエーリ	イタリア	コレクション	全紙	3
55	シモーネ・レア	イタリア	おっちょこちょいのカエルちゃん	全紙	3
56	ジョヴァンニ・リッツォ	イタリア	ロダーリ	全紙	3
57	ヌーシーン・サファーフー	イラン	ルミの話	全紙	3
58	ルミの話	日本	帽子はどこ？	全紙	3
59	シーソー。(伊藤和人・シラキハラメグミ)	日本	森のサーカス	全紙	3
60	クリスティーナ・シトウハルビオ	スペイン	自然いきいき	全紙	2
61	マルコ・ソマ	イタリア	ずてる	全紙	1
62	カトリーヌ・シュタングル	ドイツ	キツネとガチョウ、これは何？	全紙	1
63	スズキ サトル	日本	ティピー・キャンプ	全紙	2
64	たかい よしかず	日本	ごちそうくろくま	全紙	3
65	シモン・テルミニヨン	フランス	ラップランドのウサギ	全紙	3
66	とみたしょうこ	日本	かっちゃんの昔あそび	全紙	3
67	トンカ・ウズ	ブルガリア	ブレーメンの音楽隊	全紙	3
68	ゾウ・ペイジ	台湾	おどる羽	全紙	3
69	釣谷 幸輝	日本	ケルプ博士の奇妙な発明	全紙	1
70	内橋 未央	日本	集合写真 ～日本式～	全紙	3
71	ジェニファー・ユーマン	アメリカ	ヴァレリオ・ヴィダーリ	全紙	5
72	アリアンナ・ヴァイロ	イタリア	にんじん(ルナール作)	全紙	3

73	渡辺 美智雄	日本	なまえはマメ	全紙	2
74	山田 和明	日本	わたしの赤いふうせん	全紙	3
75	ハサン・ザフレディーン	レバノン	ふたたび	全紙	2
76	ジャン・アユエ	中国	ブタのアナト	全紙	2
特別 展示	フィリップ・ジョルダーノ	イタリア	かぐや姫	全紙 100×70cm	19 1
			かぐや姫 (スケッチ)	全紙	11

八奏工芸展

会 期 平成 23 年 11 月 12 日 (土) ~ 12 月 25 日 (日)

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館

会 場 展示室-1/ギャラリー

観 覧 料 高校生以上 200 (160) 円、中学生以下無料 ※ () 内は 20 名以上の団体料金

内 容 「八奏工芸展」は、日展 (日本美術展覧会)、日本新工芸展に出品することで出会った、愛知県在住の 8 名の作家による展覧会である。陶器 3 名、染色 3 名、人形 2 名で構成し、日本の工芸技術を現代の生活の中に生かすことを目指して創作活動をされている。「八奏」という名前には、「八」という数字が古くから数の多いことを表現することから、「様々な種類の工芸作品を奏でる」という意味が込められている。本展では、日展や日本新工芸展に出品された大作を中心に展示し、あわせて私たちの暮らしに身近な作品も紹介した。

関連行事 (1) ワークショップ「絞り技法によるハンカチ作り」(染色)

12 月 18 日 (日) 午前 10 時~正午

内容: 本展の出展作家による染色ワークショップ。糸や身近なものを使って、自分だけのオリジナルハンカチに染める。

講師: 新野素子氏、塚原衣里子氏、山内幸子氏

(2) ワークショップ「人形のストラップ作り」

12 月 18 日 (日) 午後 2 時~4 時

内容: 本展の出展作家によるワークショップ。ウッドビーズとビーズを使って小さなかわいい人形を作り、ストラップにする。

講師: 永井はな子氏、有馬知佳子氏

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	素材	寸法 (cm)	備考
1	山本幸嗣	繫拓	2010	陶器	高さ 59.5×幅 47.0×奥行 17.0	
2	山本幸嗣	木衣	2004	陶器	高さ 30.0×幅 47.5×奥行 30.0	
3	山本幸嗣	繫	2010	陶器	高さ 72.5×幅 74.0×奥行 20.5	
4	山本幸嗣	豊和	2009	陶器	高さ 43.0×幅 59.0×奥行 22.0	
5	永井はな子	虹	2011	桐塑	高さ 56.3×幅 63.0×奥行 30.3	
6	永井はな子	古の調	1996	桐塑	高さ 48.0×幅 18.0×奥行 21.0	
7	永井はな子	歓喜	2002	桐塑	高さ 46.3×幅 41.0×奥行 31.0	
8	永井はな子	窓	2008	桐塑	高さ 51.0×幅 39.0×奥行 42.0	
9	永井はな子	調	1994	桐塑	高さ 46.0×幅 19.0×奥行 22.0	
10	新野素子	名残花	1991	絹布、型染、 二曲一隻	高さ 176.5×幅 170.0	
11	新野素子	春の調べ	2011	綿布、型染、 二曲一隻	高さ 168.5×幅 149.0	

12	新野素子	春、ワルツのように	2005	絹布、型染、 二曲一隻	高さ 171.0×幅 170.0	
13	水野教雄	洋	2005	陶器	高さ 19.0×幅 60.0×奥行 36.0	
14	水野教雄	景	2011	陶器	高さ 43.0×幅 62.0×奥行 23.0	
15	水野教雄	花咲く丘	2004	陶器	高さ 16.0×幅 64.0×奥行 33.5	
16	水野教雄	群遊	2003	陶器	高さ 32.2×幅 56.2×奥行 20.0	
17	水野教雄	雨	2010	陶器	高さ 46.5×幅 44.0×奥行 23.0	
18	有馬知佳子	雨を聴く	2009	桐塑	高さ 37.5×幅 46.0×奥行 28.0	
19	有馬知佳子	風をつかまえる	2007	桐塑	高さ 77.0×幅 51.0×奥行 40.0	
20	有馬知佳子	やさしい波	2004	桐塑	高さ 36.0×幅 90.0×奥行 40.0	
21	有馬知佳子	向い風	2006	桐塑	高さ 31.0×幅 73.0×奥行 19.0	
22	森 克徳	白象	2007	陶器	高さ 58.0×幅 33.0×奥行 27.0	
23	森 克徳	気	2009	陶器	高さ 38.0×幅 43.0×奥行 29.0	
24	森 克徳	彩釉「双璧」	2003	陶器	高さ 49.0×幅 52.0×奥行 29.5	
25	森 克徳	白釉彩「搖」	2002	陶器	高さ 61.0×幅 37.0×奥行 22.5	
26	塚原衣里子	蓮協奏	2009	綿布、ローケツ染	縦 130.5×横 162.0	
27	塚原衣里子	想	2008	綿布、ローケツ染	縦 162.0×横 130.5	
28	塚原衣里子	時のうつろい	2011	綿布、ローケツ染	縦 130.5×横 162.0	
29	山内幸子	和	2005	麻・レーヨン、 絞り染	縦 282.0×横 130.2	
30	山内幸子	想	2004	麻・レーヨン、 絞り染	縦 186.5×横 81.5×奥行 29.5	
31	山内幸子	夕景色	2006	麻・レーヨン、 絞り染	縦 183.5×横 88.5×奥行 22.5	
32	新野素子	秋桜	2006	絹布、型染	縦 55.0×横 33.5	
33	新野素子	夏の道	2011	絹布、型染	縦 22.0×横 47.0	
34	山本幸嗣	泥彩陶	2010	陶器	高さ 14.5×幅 49.0×奥行 16.0	
35	山本幸嗣	縹紋鉢	2011	陶器	口径 34.7×高さ 12.5	
36	山本幸嗣	縹紋ぐい呑 (5点)	2011	陶器	口径 5.8×高さ 5.9	
37	塚原衣里子	蓮	2011	麻布、ローケツ染	縦 13.0×横 16.0	個人蔵
38	塚原衣里子	蓮	2011	綿布、ローケツ染	縦 24.0×横 53.2	
39	塚原衣里子	蓮	2011	綿布、ローケツ染	縦 24.0×横 53.2	
40	永井はな子	憩 A	2011	桐塑	高さ 15.0×幅 9.0×奥行 8.2	個人蔵
41	永井はな子	憩 B	2011	桐塑	高さ 15.0×幅 12.0×奥行 15.0	個人蔵
42	永井はな子	憩 C	2011	桐塑	高さ 13.0×幅 10.0×奥行 10.0	
43	永井はな子	遊	2010	桐塑	高さ 8.0×幅 26.0×奥行 8.0	個人蔵
44	永井はな子	千両	2011	桐塑	高さ 7.5×幅 15.5×奥行 15.5	
45	永井はな子	祝	2011	桐塑	高さ 10.0×幅 15.0×奥行 15.0	個人蔵
46	水野教雄	練り込み皿	2005	陶器	縦 23.0×横 38.8×高さ 6.0	
47	水野教雄	練り込み湯呑み (5点)	2011	陶器	口径 8.2×高さ 5.0	
48	水野教雄	練り込み器	2011	陶器	口径 26.0×高さ 5.7	
49	水野教雄	練り込み陶管	2009	陶器	径 22.0×高さ 11.0	
50	山内幸子	染まる	2011	麻・レーヨン、 絞り染	縦 167.0×横 44.0	
51	山内幸子	染まる	2011	麻・レーヨン、 絞り染	縦 140.5×横 49.0	
52	山内幸子	天空へ	2006	麻・レーヨン、 絞り染	縦 127.2×横 48.0	
53	山内幸子	思いは遠く	2005	麻・レーヨン、 絞り染	縦 53.0×横 71.5	
54	森 克徳	彩釉陶板	2011	陶器	縦 43.0×横 50.8	
55	有馬知佳子	大切なもの	2010	桐塑	高さ 12.0×幅 21.0×奥行 10.0	
56	有馬知佳子	起きてみようかな	1998	桐塑	高さ 10.5×幅 10.2×奥行 25.0	
57	有馬知佳子	いい子だね	2003	桐塑	高さ 9.0×幅 25.2×奥行 8.0	
58	有馬知佳子	強情ぱり	2005	桐塑	高さ 12.5×幅 12.0×奥行 12.0	
59	有馬知佳子	鳥が飛んでいくよ	2008	桐塑	高さ 20.5×幅 19.5×奥行 5.5	
60	森 克徳	砂文色絵香炉	2006 頃	陶器	高さ 12.2×幅 17.0×奥行 11.5	
61	森 克徳	砂文猫の器	2011	陶器	高さ 12.5×幅 14.0×奥行 10.5	
62	森 克徳	砂文色絵香合	2011	陶器	高さ 6.3×幅 6.5×奥行 6.5	
63	森 克徳	砂文色絵香合	2011	陶器	径 6.5×高さ 8.5	

64	森 克徳	砂文色絵香炉	2011	陶器	高さ 16.5×幅 15.5×奥行 8.5	
65	森 克徳	彩陶陶板	2011	陶器	縦 43.0×横 50.8	

新収蔵品展－民俗写真の先駆者・芳賀日出男による写真作品を中心に

会 期 平成 24 年 1 月 2 日（月・祝）～2 月 12 日（日）

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館

会 場 展示室－1、ギャラリー

観 覧 料 高校生以上 200（160）円、中学生以下無料 ※（ ）内は 20 名以上の団体料金

内 容 平成 22 年度に新収蔵した写真作品 40 点、絵画作品 7 点を初公開する。展示の中心となる作品は、芳賀日出男による奥三河の「花祭り」を捉えたドキュメンタリー写真であり、氏が 1960 年代より撮りためてきた、神事から鬼の舞まで祭りの全貌が記録された写真群である。柳田國男が「日本人にとっての祭りの起源」と評価した「花祭り」。芳賀日出男が切り取った猛々しく切迫感のある写真を展示した。

このほか、平成 22 年度に寄贈された絵画作品として、名古屋の前衛芸術家・堀尾実による日本画 4 点と、同じく名古屋出身で現在も活躍中の画家・久野和洋による油彩画 3 点、あわせて、平成 20 年度に収蔵し、修復作業を終えた地元ゆかりの画家・大澤鉦一郎の油彩も初公開した。

関連行事 (1) 講演会「写真家・芳賀日出男の活動の軌跡と花祭りについて」

2 月 5 日（日）午後 2 時～4 時

内容:本展の出展作家である芳賀日出男氏に、これまでの写真家としての活動の軌跡や、本展で展示している作品「花祭り」シリーズについて、1960 年代から追いかけてきた花祭りの姿、魅力、役割、変遷などを含めてお話しいただく。

講師：芳賀日出男氏（写真家）

(2) 学芸員によるギャラリートーク

① 1 月 22 日（日） ② 2 月 11 日（土・祝）各日午後 2 時～

講師：今泉岳大（当館学芸員）

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	素材	寸法 (cm)	備考
1	堀尾実	題名不詳	1952	油彩、キャンバス	53.0×65.0	
2	堀尾実	標識 2	1958	油彩、紙、 キャンバス	72.8×53.0	
3	堀尾実	斧	1958	日本顔料、 キャンバス	71.8×114.5	
4	堀尾実	渦汐・岬による作品	1958	油彩、石膏・厚紙、 キャンバス	60.8×72.5	
5	久野和洋	地の風景・CASA DI GIOTTO への道	2010	油彩、キャンバス	130.3×130.3	
6	久野和洋	ムゼオ・アルケオロジコ の樹	2009	油彩、キャンバス	145.5×97.0	
7	久野和洋	卓上静物・百合と水差し など	2009	油彩、キャンバス	72.7×100.0	
8	大澤鉦一郎	風景	1915 頃	油彩、キャンバス	46.5×34.0	
9	大澤鉦一郎	(作品)	不明	油彩、キャンバス	33.0×45.5	
10	芳賀日出男	花祭りの村の民家の花宿	1968	ゼラチンシルバー プリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄 町月
11	芳賀日出男	お瀧にまいり、聖水を汲 む	1962	ゼラチンシルバー プリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄 町下粟代
12	芳賀日出男	山に登り高嶺祭	1962	ゼラチンシルバー	小全紙	愛知県北設楽郡東栄

				プリント		町下粟代
13	芳賀日出男	畑地で辻固めの手印を結ぶ花太夫	1961	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町下粟代
14	芳賀日出男	山より里へ降りてくる榊鬼	1971	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
15	芳賀日出男	榊鬼をまつた榊屋敷の祭壇	1971	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
16	芳賀日出男	榊屋敷の宮人が榊鬼の神面に挨拶をする	1969	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
17	芳賀日出男	花祭の舞処	1969	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
18	芳賀日出男	舞処に氏神を祭り、花太夫、宮人の挨拶	1969	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
19	芳賀日出男	舞処の天井にある天の祭の祭壇	1961	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町下粟代
20	芳賀日出男	花宿の神部屋（楽屋）	1970	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町下粟代
21	芳賀日出男	切目の王子の勧進（神寄せ）	1963	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町下粟代
22	芳賀日出男	湯立神事	1968	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
23	芳賀日出男	湯立神事をする花太夫	1961	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
24	芳賀日出男	花太夫の撥の舞	1968	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
25	芳賀日出男	宮人の舞 御神楽	1962	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町下粟代
26	芳賀日出男	見物の村人たち	1960	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町東菌目
27	芳賀日出男	いちの舞	1970	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
28	芳賀日出男	花の舞	1960	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
29	芳賀日出男	山割鬼の舞	1961	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町下粟代
30	芳賀日出男	三つ舞	1969	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町下粟代
31	芳賀日出男	榊鬼役 着付け	1969	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
32	芳賀日出男	せいどの若者たち	1962	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
33	芳賀日出男	榊鬼役が神面に献盃	1961	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町下粟代
34	芳賀日出男	舞処に現れる榊鬼	1969	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
35	芳賀日出男	榊鬼 反問の舞	1972	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
36	芳賀日出男	榊鬼と宮人の榊引き	1969	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
37	芳賀日出男	民家を巡り疫神を祓う榊鬼	1972	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
38	芳賀日出男	巫女の舞	1960	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町下粟代
39	芳賀日出男	ひのねぎの舞	1962	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町下粟代
40	芳賀日出男	四つ舞	1970	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
41	芳賀日出男	翁舞	1970	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
42	芳賀日出男	湯囃子	1969	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月
43	芳賀日出男	朝鬼	1968	ゼラチンシルバープリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄町月

44	芳賀日出男	ひいなおろし	1969	ゼラチンシルバー プリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄 町月
45	芳賀日出男	花育て	1969	ゼラチンシルバー プリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄 町月
46	芳賀日出男	大將軍 かえりあそび	1963	ゼラチンシルバー プリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄 町下粟代
47	芳賀日出男	鎮めの舞の神面	1970	ゼラチンシルバー プリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄 町下粟代
48	芳賀日出男	花太夫の鎮めの舞	1968	ゼラチンシルバー プリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄 町月
49	芳賀日出男	げどうがり（神返し）	1963	ゼラチンシルバー プリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄 町下粟代
50	芳賀日出男	田植え	1963	ゼラチンシルバー プリント	小全紙	愛知県北設楽郡東栄 町下粟代
51	芳賀日出男	籾種を蒔く	1956	ゼラチンシルバー プリント	小全紙	愛知県海部郡大治村

特別展「第 21 回 日本陶芸展」

会 期 平成 24 年 2 月 18 日（土）～3 月 25 日（日）

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館／毎日新聞社

後 援 文化庁／愛知県教育委員会／高浜市／高浜市教育委員会／高浜市観光協会／
NHK プラネット中部／名古屋鉄道株式会社

特別協賛 TOTO

協 力 シンリュウ

会 場 ホール／展示室-1／ギャラリー

観 覧 料 高校生以上 600（480）円、中学生以下無料 ※（ ）内は 20 名以上の団体料金

内 容 日本陶芸展は、あらゆる陶磁器作品を対象とした日本最大規模の公募展。「実力日本一の作家を選ぶ」というコンセプトのもと 1971 年に創設されて以来、隔年で開催され、今回で 21 回目を迎えた。公募部門は第 1 部（伝統部門）、第 2 部（自由造形部門）、第 3 部（実用部門）に分かれており、今回は 135 点の入賞・入選作品が選ばれた。これに招待部門として重要無形文化財保持者（人間国宝）やベテランの陶芸作家による 13 点をあわせた、計 148 点の作品を展示した。

図 録 A4 判変形、94 頁、毎日新聞社発行

関連行事 (1) 講演会

10 月 17 日（日）午後 2 時～4 時

演題：「陶芸公募展のむかしと今」

内容：やきものの公募展の歩みを振り返り、今、どのように展覧会を楽しむかを、一緒に考えた。

講師：榎本 徹氏（岐阜県現代陶芸美術館館長）

(2) 陶芸ワークショップ「板作りによる装飾的な花器づくり」

2 月 19 日（日）午前 10 時～正午

内容：第 20 回日本陶芸展にて準大賞、今回も入選されている高浜市在住の陶芸作家森

先生のご指導のもと、飾りの付いた花器をつくる。

講師：森 克徳氏（陶芸作家）

(3) ちいさなワークショップ「春分の日 日時計をつくろう」

3月20日（火・祝）午前10時～正午、午後2時～4時に随時開催

内容：昼と夜の長さが同じ春分の日になみ、太陽の位置で時間を知る日時計をペーパークラフトで作る。

講師：金子 智・安藤さおり・今泉岳大（当館学芸員）

(4) 音楽ワークショップ「トーンチャイムに挑戦」

2月26日（日）午後1時30分～4時

内容：コンサートボランティアの方々によるワークショップ。ハンドベルに似た楽器「トーンチャイム」をみんなで演奏する。

講師：RAKUDAチャイムクワイア

(4) 担当学芸員によるギャラリートーク

① 2月25日（土） ② 3月11日（日） 各日午後2時～

講師：金子 智（当館学芸員）

出品目録

No.	作家名	作品名	寸法 (cm)	備考
入賞作品				
1	石橋 裕史	彩刻磁鉢”瀝瀝”	24.5×53×50	大賞・桂宮賜杯
2	五味 謙二	彩土器	72×45×33	準大賞・日本陶芸展賞
3	三崎 哲郎	糸抜き波状紋大鉢	11×58×58	第1部 優秀作品賞・文部科学大臣賞
4	高津 未央	「そこに棲息する 0903」	23×73×26	第2部 優秀作品賞・毎日新聞社賞
5	六平	青白磁縁錆折縁組鉢	大9×36.5×36.7、 小5.3×22.7×22.7	第3部 優秀作品賞・毎日新聞社賞
6	室伏 英治	Nerikomi Porcelain 「モノクローム・エフェクト」	16×39	特別賞・茨城県陶芸美術館賞
7	土井 雅文	鉄釉掛分組鉢	5.9×25	特別賞・TOTO賞
招待部門				
8	今泉 今右衛門 (14代)	色絵薄墨墨はじき風船蔓文鉢	14×45.5	
9	太田 孝宏	鉛釉押紋皿	12.5×62×62	
10	隠崎 隆一	芯韻	44×49×41	
11	加藤 清之	作品 10-8.15	95×51×18	
12	柴田 雅章	灰釉スリップウェア大鉢	10×49	
13	鈴木 藏	志野茶碗	9.6×13×12.8	
14	武腰 潤	「鶉」四稜の壺	33.7×21.7×21.7	
15	田嶋 悦子	Cornucopia 11-Y2	73×63×29	
16	西端 正	丹波赤土部壺	46×48×48	
17	前田 昭博	白瓷面取壺	36×40.1×40.1	
18	前田 正博	色絵金銀彩蓋物	11×28	
19	三原 研	炆器花器	45.5×51.5×28	
20	宗像 利浩	瑠璃壺	31.5×39.5	
公募第1部 【伝統】				
21	小野 隆治	釉裏紅釉象嵌壺	32.5×36×36	賞候補
22	澤田 勇人	赫跡器	59.2×22.5×14.5	賞候補
23	山本 浩彩	焼締窯変莖壺	38×36×36	賞候補
24	浅野 治志	色絵とんぼ図鉢	12.5×47×47	
25	飯沼 耕市	銀彩四角鉢	34×57×30	
26	市野 悦夫	鉄茜花器	38.5×35.5	
27	伊藤 信夫	黒泥彩彫文鉢	13.1×53.3	
28	伊藤 秀人	練彩鉢	19×43.5×38.5	
29	伊東 祐一	青瓷壺	36×41	

30	今田 拓志	燻の器 (たねから)	34.8×36×36	
31	上田 敦之	萩化粧抜呉須波線刻文花器	48.5×60×20	
32	植竹 敏	搔落し彩泥花器	51×43	
33	太田 富隆	鉄釉線文掛分鉢		
34	大西 先	青磁線文花器	32×45×45	
35	岡田 優	白釉稜線鉢	20×44	
36	岡田 裕	炎彩花器	41×25×28	
37	織田 阿奴	六角陶筒	16.5×31.8×27.6	
38	鬼丸 尚幸	青白磁面取鉢	37×49×49	
39	小野 隆治	釉象嵌鉢	13.5×50×52	
40	小野 道佳	釉描色絵野葡萄図鉢	11.5×49.6×49.6	
41	加古 勝己	茶碗「雪景」	10.5×14.7×12.5	
42	加藤 清和	藍 2011-1	14×44×44	
43	加藤 重美	錦繞	10×26.5×26.5	
44	兼田 知明	萩黒彩長方皿	6×58×41	
45	亀田 茂友	青白磁彫文鉢	18.5×46×46	
46	亀田 緑光	青白磁刻文壺	38×36.5×36.5	
47	河端 一海	淡黄磁蓼草文輪花鉢	14×50.5×50.5	
48	菊地 弘	彩泥瓷花器	31.8×41.3×41.3	
49	北濱 芳恵	氷裂	41×25×25	
50	草場 勇次	練上焼締波文組鉢	大 6.5×31×31、小 5.5×18×18	
51	久保田 烈工	白磁面取花器	44.5×38.5×31	
52	覺農 美重子	彩泥線文鉢	11.5×48.5×48.5	
53	小橋 順明	青備前急須	13.5×18.5×13.5	
54	小林 浩	青瓷花器	47.5×22.5×22.5	
55	言上 とよ子	色化粧象嵌吹き付け組皿	4×25.5×25.5	
56	佐伯 守美	象嵌銀彩線文角皿	7.5×50×49.5	
57	酒井 紫羊	山帰来紋大皿	9.2×48×48	
58	坂井 輝夫	青磁壺	40.3×38.5	
59	椎名 勇	灰釉堆線文扁壺	45×29×18.5	
60	清水 一二	吹泥金彩線文器	35×40×33	
61	清水 圭一	白泥花器	53×36×21	
62	鈴木 徹	緑釉花器	33.8×54×36	
63	竹西 辰人	プラチナ鍍釉彩鉢「揺」	30×45×45	
64	竹村 智之	虹のキセキ	55.5×40×26	
65	津金 日人夢	青瓷鉢	31×54.5×37	
66	辻田 岳秀	練上組皿	4×28×28	
67	徳澤 守俊	朝鮮唐津水指	15×24×22.5	
68	中田 雅巳	LINE	大 13.8×18×18、小 14×15.5×15.5	
69	西尾 瑞舟	炭化白釉壺	52×38×38	
70	西田 宣生	碧の器	17×54×54	
71	西本 直文	玄生「宇」	48×60×32	
72	橋本 昌彦	塩釉長方皿	11×60×31.6	
73	樋口 邦春	白磁流彩鉢	15×50.5×50.5	
74	平岡 朋美	水色貫入鉢	14.2×46	
75	平賀 妙子	湖上の月あかり	53×54×25	
76	藤井 隆之	吹染蓮図大壺	37.5×43	
77	藤本 健一朗	青白磁鉢	18×50×50	
78	古野 勢兒	緑釉月暈鉢	15.7×49×49	
79	古谷 徹	紺碧流文大皿	9×59×59	
80	保立 剛	彩泥象嵌銀杏文鉢	8.5×50.5×50.5	
81	牧野 修一	寄瓷彩玉文壺	40×38×38	
82	松井 康陽	棕灰釉練上六角深鉢	40.2×37.2×37.2	
83	松川 和弘	青白磁三角鉢「緋」	16.4×51.8×51.8	
84	松村 仁団望	練込柳葉文八角鉢	13×51×49.5	
85	間野 舜園	線文様茶注三種	18×17×8.5	
86	美崎 光邦	彩釉泥深々鉢	59×29×23	

87	御手洗 真理	帆翔の器	22×56×32	
88	見附 正康	連光	11×49.8×49.8	
89	宮島 正志	粒彩線条紋の器	54×36×32	
90	宮地 陶博	彩泥粒穴雨縞文花器	49×34	
91	桃崎 孝美	青瓷鉢	20.5×49.5×49.5	
92	森 和彦	spones	15×50×50	
93	森 克徳	彩釉波紋鉢	21×50.5×50.5	
94	森田 由利子	線描幾何文花入	37.5×29×29	
95	山路 和夫	剪紙染分小紋長皿	10.5×65.5×28	
96	大和 保男	炎彩掛分長方皿	13×55×32.5	
97	吉川 光太郎	立涌紋角大皿	7.5×40.5×40.5	
98	米田 和	黒描鳥花文壺	27×31×31	
99	和田 龍郎	黒天目釉白紋鉢	12×56×56	
100	渡 仁	上野ヤケ釉壺	43.5×35.5×35.5	
公募第2部 【自由造形】				
101	明石 竜太郎	つがい	76×82.5×40	賞候補
102	菊地 勝	ツチュミ	42×68×44	賞候補
103	清水 正章	思考の方向	16×90×45	賞候補
104	猪倉 高志	かげを纏うかたち	24×30×29	
105	石添 秀正	翹望	24×46×46	
106	大野 泰史	葉・種	葉 20×87×30、 種 20×35×35	
107	加藤 秀樹	魂胆	38×78×46	
108	川合 牧人	森の家-abandoned garden (見棄てられた庭) -	34.5×62.3×8.2	
109	川端 健太郎	chlonie	左 57×15×21、 中 69×16×14、 右 71×13×13	
110	神田 和弘	集	58×52×45	
111	神田 樹里	標	70×40×25	
112	喜多 浩介	砂に眠る	25×72×55	
113	慶野 ことり	花-2011	63×83×34	
114	坂口 喜美子	収穫	39×58×80	
115	清水 剛	接器	85.5×46×42	
116	中島 健蔵	energy flow“絶え間なく流れる 命のエネルギー”	37×64×56	
117	藤笠 砂都子	風舞	71×73×52	
118	増原 香織	girar	13×37	
119	水上 幸仁	夢より深く眠るため3	大 73.5×43×23、 小 72.5×35.5× 17.5	
120	村山 恵子	黒想の雫 '11-1	75×35×35	
121	森田 高正	浸成	25×64×43	
122	森田 高正	浸晶景	33×67×44	
123	山口 淀	仏壺	76×43×43	
124	吉川 周而	3つの形が作る形	21.5×58×43	
125	渡辺 祥子	時の重なり	57×40×25	
126	渡邊 陽子	記憶のしずく	左下 16×23×19.5、 右下 15×23×19.5、 左上・右上 16×24 ×20	
公募第3部 【実用】				
127	織田 達也	掛分八寸組鉢	7×24	賞候補
128	多々納 真	海鼠釉組鉢	大 7.5×26.7、 小 5.5×21	賞候補
129	阿部 眞士	白磁口紅八寸組皿	4.5×24.5	
130	石飛 勝久	白磁面取り番茶器	土瓶 15×19×13.5、 湯のみ 7.5×7×7	
131	井上 泰秋	ワラ白釉打掛流し大皿	11×46×46	
132	今泉 毅	黒彩ノ器一弦月一	大 10.5×28×28、 小 9×28×28	

133	荻原 毅久	白磁鎗手組皿	大 5.5×28×28、 小 3.5×15×15	
134	陰山 善市	掛合釉彩組鉢	大 10×26、小 7×15	
135	河井 一喜	呉須組鉢	大 8×38、小 5×18.5	
136	高鶴 勝也	上野掛分組鉢	大 9×38×38、 小 6×23.5×23.5	
137	坂本 章	掛分六角組皿	大 5.5×41、 小 3.5×21.8	
138	島根 大	飴釉組平皿	3.5×24	
139	清水 裕子	朧月一舟形皿・舟形浅小鉢	大 3×32×24.5、 小 4×18×12.5	
140	鈴木 秀孝	林檎灰青釉組皿	大 6×32×32、 中 5×27×27、 小 4×18×18	
141	高橋 悟	子タンマット釉掛分鉢	7×22	
142	西田 宣生	碧の器	5.5×21×21	
143	深津 典子	飴釉組深皿	大 10×24、 小 8.5×19.5	
144	福間 琇士	スリップウェア長角組皿	大 6×30×28、 小 6×19.5×17	
145	星野 榮一	白磁流紋組鉢	8×27.5	
146	松尾 無蔵	古代釉組皿	3×27.5	
147	松形 恭知	飴釉櫛目組鉢	5.5×24	
148	森 和之	青白磁組鉢	5.3×24.2×24.2	

2 展覧会事業報告

(1) 一油彩をはじめて50年、画家・斎藤吾朗の作品と収集品－ 「斎藤吾朗の全活動を語ろう、具」展について

学芸員 今泉 岳大

○展覧会の趣旨

本展は西尾市在住の画家・斎藤吾朗氏の全活動に焦点を当てた展覧会として、画業だけではなく、氏が行ったさまざまな表現活動を幅広く紹介することを目的とした。特に収集家としてジャンル問わずにさまざまなものを収集してきた氏のコレクションは、過去に自身で「ガラクタ美術館」として一般公開していたほど見ごたえがあり、今回は絵画と並ぶ展覧会のメインとして展示を行った。

その他にも氏にはシンガーソングライター、俳句、版画、硝子絵、絵本作家としての活動を行っており、この意味で本展は斎藤吾朗を画家ではなく、総合的な芸術家と紹介する展覧会となったといえるだろう。

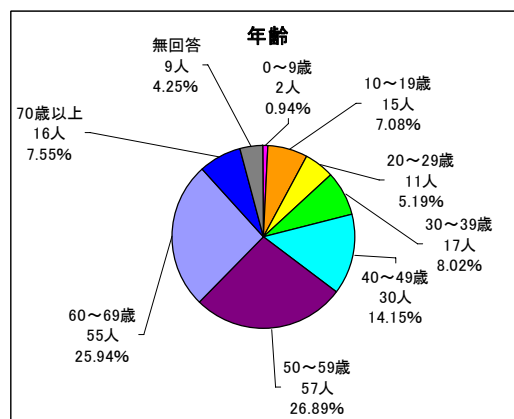
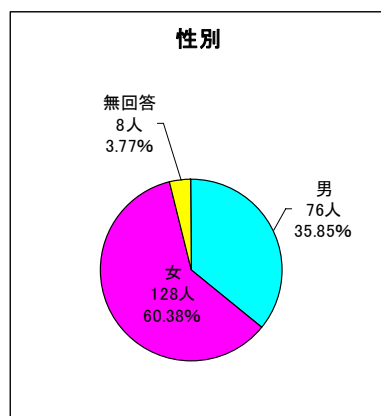
○展示作品について

1階は絵画作品とコレクションをテーマごとに分類し「祭礼の具」、「暮らしの具」、「ものづくりの具」という3つのグループに分けて展示を行った。また祭の空間をイメージし、中央には盆踊りやぐらをイメージした展示台を設置し、混沌とした雰囲気を引き出すようにコレクションを展示した。また祭り空間を彩るように天井から氏のコレクションである「桜井凧」や「提灯」を吊り下げた。

2階は氏が油彩を始めた中学生の頃の作品から、大学時代を経て今日に至るまでの各年代の代表作を時系列で展示した。特に氏が20代の頃、フランスを遊学中に模写した「モナ・リザ模写作品」は氏の画業を語る上で欠かせない重要な作品として展示した。

○観覧者の傾向

観覧者数は6,378名、内有料観覧者2,583名（約40.4%）、無料入場者数3,795名（約59.5%）であった。アンケート（212枚、回収率3.32%）によると、男女比率は女性が多く男性35.85%に対して女性は60.38%であった。年齢層は50代と60代が最も多く、合わせて全体の52.85%であった。



○観覧者の反応

会期中、展覧会作家である斎藤吾朗氏が美術館に訪れ、自ら観覧者に作品を解説するということが多くあり、観覧者は普段接することがない芸術家との話に満足されていた様子が印象的だった。展示品には年配の方にとって懐かしいと感じるものが多くあり、回想話などをされて楽しんでいる様子が多く観察でき、一度だけでなく何度も足を運んでくれたリピーターもあった。

来館者同士が楽しくコミュニケーションをとって見てほしい、という斎藤吾朗氏の考えのもと、本展は私語の規制を緩くした。展示室では、年配の来館者が若い来館者に思い出話をする、というような場

面もあり、効果的であったと感じている。

また、アンケートの意見に『正直自分がこんなに時間をかけて見ることになるとは思いませんでした。』（20代男性）とあるように若い方や親子連れも、絵画の細密な描写の細部を観察して楽しんでいた様子が目立った。

○関連行事について

関連行事としては、齋藤吾朗氏の講演会や氏を講師に招いた油彩のワークショップなどを行った。

講演会では齋藤吾朗氏のフランス遊学時にルーブル美術館にて描いたモナリザの模写作品についての話から、今日に至るまでの画業についてユーモラスにお話いただき、聴衆からは笑い声も度々聞こえた。最後はシンガーソングライターとしての活動の紹介として自前のギターで弾き語りをしていただき好評を博した。

ワークショップは「油彩に挑戦！親子で肖像画を描き合おう」というタイトルのもと参加者を親子に限定し、油絵がはじめての人に向けた基礎教育から行った。配布した5号のキャンバスに親子で肖像画を描いた。油彩はすぐに乾かないので、ダンボールでトレイを作って汚れないように持って帰ってもらった。

○東日本大震災について

展覧会開幕の1ヶ月程前に起こった東日本大地震の復興を祈念して、震災と東北に関係した作品「花祭神鬼の地固めの舞踏」「天橋立・台風で倒れた双龍の松から」「幸福の黄色いポストの町」の3作品を急遽出品した。特に「花祭神鬼の地固めの舞踏」は愛知県奥三河で行われる花祭の、地震を鎮める鬼の舞を描いており、展覧会期間中も余震が続いた関東・東北地方の無事を祈ると共に、予想されている東海地震への備えを促すことを期待した。

「幸福の黄色いポストの町」は、震災の被災地となった宮城県大崎市にある黄色いポストを描いた作品で、本作品を出品すると同時に来場者の大崎市の方々への応援メッセージを募集した。合計216枚のメッセージが集まり、齋藤氏を通じて大崎市へ届けた。

○まとめ

本展のねらいは、齋藤吾朗氏による絵画制作活動と収集行為を並列に展示することで、そのどちらも創造的な行為であると伝えることにある。つまり、ものを集めるという日常的な行為も創造であり、従って誰でも創造あるいは創作を行うことができるアーティストなのだというメッセージを通して、観覧者の創造意欲を刺激することを目的とした。展示室では観覧者同士が作品の感想や展示品から喚起された記憶などを話し合う場面が見られ、ひとつの成果だと感じた。また、アンケートに『こちらでの齋藤吾朗さんの展示待ち望んでおりました。ご本人の思いと美術館のメッセージ本当によく伝わりました。』（60代女性）という意見をはじめ、満足度の高さを示す意見も多くあった。今後もひねりを加えた郷土作家の展覧会を行っていきたい。

(2) 一色彩の再発見・近代巨匠による「クレパス画名作展」について

学芸員 金子 智

自由画教育、農民芸術運動の旗手であった山本鼎の協力のもと、大正14年に日本で生まれた画材「クレパス」。その開発元である(株)サクラクレパスの運営するサクラアートミュージアム、および日動美術財団のご協力により、戦後の洋画壇を代表する作家や、現在も活躍する多くの画家により描かれた「クレパス画」の名品展である。

学校教育で積極的に取り入れられていることから、一般には子どものための画材と思われがちなクレパスだが、鮮やかな発色や手軽さ、重ね塗りや混色といった多くの技法との組み合わせによる表現の幅広さは、専門家にも重視されるまさに本格的な画材としての魅力を兼ね備えている。本展示では、有名作家らの作品とともに、技法パネルなども交えて、その魅力を紹介した。

○展示作品について

作品は、(株)サクラクレパスが運営するサクラアートミュージアムと、笠間日動美術館の所蔵品の中から精選した。展示作品の選定にあたっては、各作家最低1点を原則とし、現存作家については原則1点（一部2点）、物故作家については所蔵品のなかから、適宜複数の作品を選び展示した。総点数は130作家、153点（物故作家作品105点、現役作家作品48点）である。

サクラアートミュージアムの所蔵品の多くは、戦後1950年頃にサクラクレパスの依頼によって書かれた当時の著名作家によるものであるが、一部に戦前の山本鼎や、三岸節子などの初期クレパスの作品もある。梅原龍三郎、岡本太郎、須田国太郎、三岸節子など著名な作家も多数含まれる。日動美術財団所蔵の作品は2006年頃から気鋭の作家に依頼されて描かれたものが中心で、大半が現存作家である。

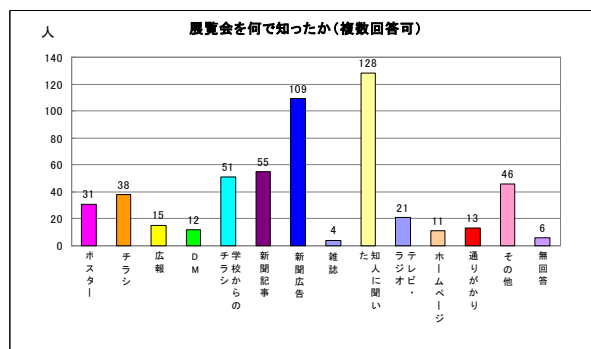
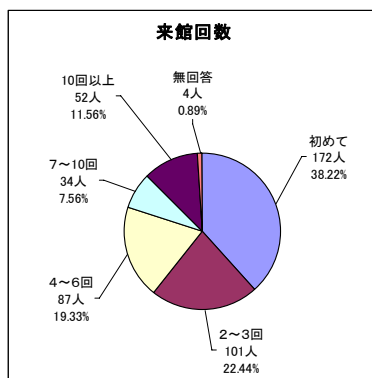
技法的には、クレパスを中心画材として用いた作品であるが、コラージュやミクストメディアなど複数の画材を組み合わせた作品も含まれる。

展示は、冒頭にクレパス生みの親である山本鼎など初期クレパスの作品を展示し、前半で「近代巨匠の作品」、後半で「現役作家の作品」という大きく二部に分けて作品を展示した。

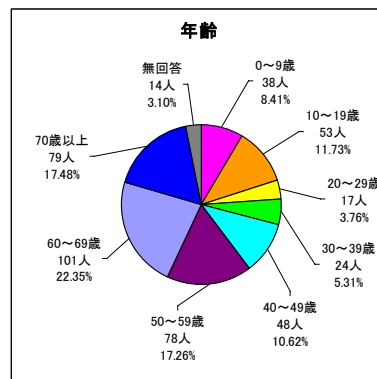
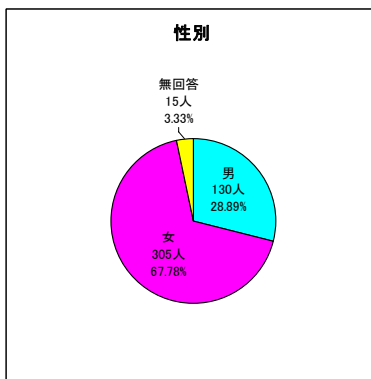
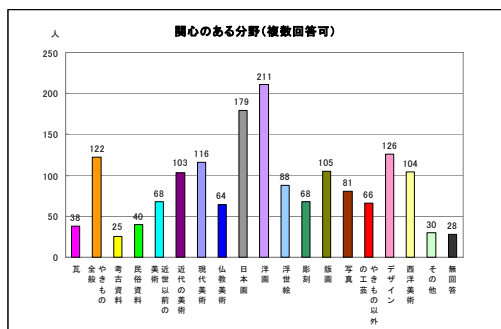
○観覧者の傾向

来館者数は合計10,713人と、目標の目安としていた4,500人を大きく超える好評となった。特徴的なのは無料入館者が約68%と多かった点で、これは朝日新聞社との共催により、新聞販売店からの招待券の配布が積極的に行われた結果を反映したものと考えられる。ただ有料入場者も3,424人と多く、展覧会自体の人気の高かったことは疑いない。

アンケート結果（回収枚数450枚、回収枚数4.2%）で見ると、「知人に聞いた」口コミの来館者が目立つほか、新聞記事・広告の比率が高い。来館は初めての方が38%であるのに対し、10回以上の方も11%含まれ、なじみの方から初めての方まで幅広く来館いただいていたことがわかる。「関心のある分野」では「洋画」「日本画」が多く、次いで「やきもの全般」「デザイン」となる。この傾向は、昨年の山下清展や今年の斎藤吾朗展にも共通し、一般の洋画展での傾向といえる（ちなみにポローニャ展も似た傾向だが「デザイン」が突出する）。興味深いのはいずれの展覧会でも「やきもの全般」の比率が高いことで、当館観覧者の特徴といえるかもしれない。



年齢別来場者でみると40代～60代が半数を占め、70歳以上も17%を占めている。中・高齢層の多さが目立つ。「親しんだ画家が多くみられて良かった」という意見も見られ、近代洋画のオールドファンの心を掴んだのが、来館者数の伸びにつながったのかもしれない。性別は女性が70%近く、これも多くの美術展と同様の傾向を示している。



○来館者の反応

展示室内での来館者の反応は概して良く、クレパスという柔らかな作品の風合いや、多くの作家の作品が一同に見られる点などを評価する意見が目立った。アンケートでも個々の作品への感動が多く寄せられた。今回はロビーにクレパスと他の画材の違いを解説したパネルや、実際に描かれたサンプルなども展示し、画材の実物を入れた「画材のひきだし」を設置し鑑賞の参考に供したが、これも多くの方の興味を引き、好評であった。

○関連行事等について

現代美術家の山田彊一先生をお招きして「似てるぞ！日本と西洋の巨匠」という挑戦的なタイトルの講演会を開催した。実際の内容は作品の類似性を批判するというものではなく、むしろ日本的な美術の消化の仕方を評価するものであった。山田先生個人の人望もあり、定員をオーバーする人気となった。

また、親子向けと大人向けの二つのクレパスを用いたワークショップを行った。サクラアートミュージアムの清水靖子主任学芸員により、「いろ」の解説から、クレパスを使った実際の技法までを教わるもので、親子向け・大人向けともに募集開始直後に定員となる人気となった。

陶芸教室では、陶芸用パステルを用いたクレパス画風絵付け教室を開催し、こちらはまずまずの人気であった。このほか海の日にあわせて「色とりどりの魚で水族館」と題したちいさなワークショップをロビーで開催した。壁に貼った水色の紙に、来館した方々に魚や海の生物を描いてもらって貼っていくというシンプルなワークショップであったが、子どもを中心に多くの来館者が参加され好評を博した。

ギャラリートークにも多くの来館者を集めた。いわゆる巨匠の作品のほか、現役作家の作品に興味を示される来館者が多く、絵画に造詣の深い方が多かった印象である。

○まとめ

今回の展覧会では、従来からの当館の利用者である中高年層を中心に幅広い来館者があり、予想を超えた盛況の展覧会となった。観覧者の反応も良く、講演会やワークショップなどのイベントもいずれも高い人気となった。

本展が人気を集めた理由のひとつは、身近な画材であるクレパスによって、著名な作家によって描かれた作品が展示されるというユニークさがあるであろう。小品が中心であったが、多数の作家によるバリエーションの豊富さと魅力の強さは、これまで当館で人気を博している絵本展と共通する部分もある。

当館ではこれまで洋画をメインに据えた展覧会は少ないが、「原爆の図」展（平成19年）、戦没画学生「いのちの絵」展（平成14年）、山下清展（平成20年）や各種絵本展など、広い意味での洋画系の展示は概して人気が高い。本展の人気は、油彩などオーソドックスな絵画展への潜在的需要を反映したものと考えることもできよう。今後の展覧会構成を考える上で参考としていきたい。

(3) 「長崎歴史文化博物館収蔵品展－「鎖国」の中の輝き、長崎の^{すい}粋をみる－」について

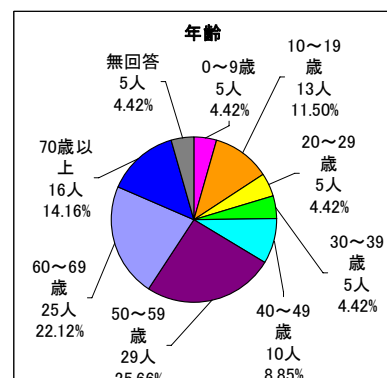
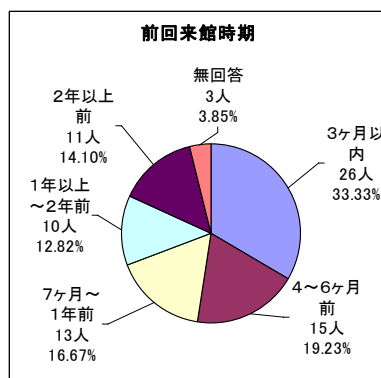
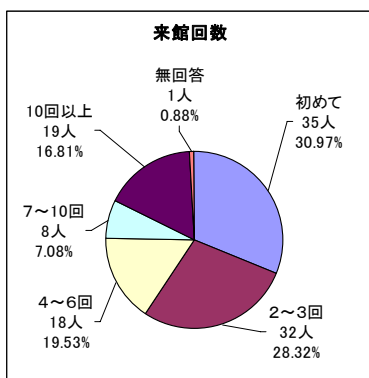
学芸員 安藤 さおり

「鎖国」の時代といわれる江戸時代、しかし実際には日本も東アジアの交流ネットワークの中にあり、場所と相手を限定はするものの、外交や貿易、文化の交流が行われていた。1570年（元亀元年）に港が開かれた長崎は、江戸時代の日本において唯一、アジアだけでなく西洋にも開かれた国際貿易都市で、唐人屋敷と出島が設置されて様々な文物や技術が伝えられるとともに、日本の文物や情報が世界へ向けて発信される窓口ともなり、日本と世界を結ぶ重要な役割を果たした。

本展では、長崎歴史文化博物館が収蔵する歴史資料や美術工芸品を展示し、江中国やオランダとの貿易や交流、それによって伝えられた様々な文物の一端を紹介した。また、舶来の技術や風物が反映され、日本人の目を楽しませた長崎ならではの工芸品の中から、やきものを中心にお楽しみいただいた。

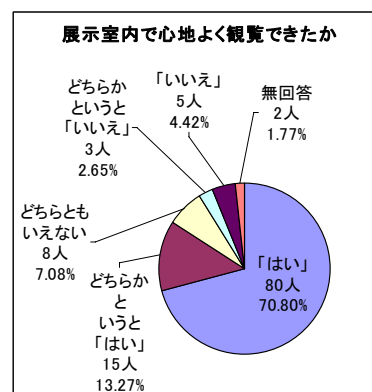
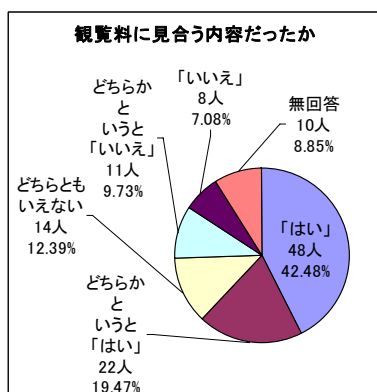
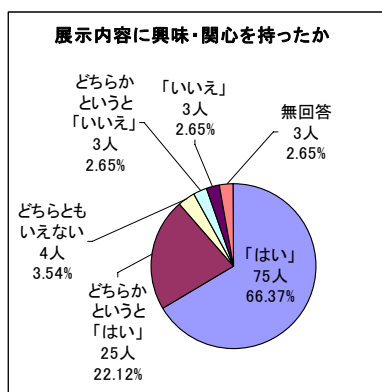
○観覧者の傾向

観覧者数の合計は 5,594 人、うち有料観覧者は 1,434 人（25.6%）、無料観覧者は 4,160 人（74.4%）【うち、中学生以下 400 人（7.2%）】であった。無料入館者の割合が高いのは、前展の「クレパス画名作展」に引き続いて本展の共同主催者である朝日新聞社の鑑賞券制度を利用し、朝日新聞販売店を通じて購読者の方に招待券を配布していただいたことが大きな要因である。アンケート（回収枚数 113 枚、回収率 2.0%）の結果では、男女の割合はほぼ同率だったが、他の展覧会と比べると男性の割合が高い。また、平日と休日の来館者数の差があまり大きくなかったが、これは節電のために自動車関連企業の休日が木曜・金曜となっていたこと、また年齢層として 60 代以上の方が他の展覧会と比べると多かったことなどが理由として考えられる。



○来館者の反応

展示会場が2階と3階であったため、1階にある観覧券売場や、2階と3階の会場が分かりやすいようサインの工夫したつもりであったが、お客様から分かりにくいとの指摘があり、手作りのサインを足して補った。今後2階と3階で特別展を行う際の検討課題としたい。また、歴史資料や絵図などといった展示資料の性質を考慮して照度を下げて暗くした結果、キャプションの文字が見にくいという声が多かった。展示資料の大きさとのバランスも取らなければならないが、年齢層の高いお客さまが多いことが予想される展覧会では特に、見やすいキャプションを作るよう配慮したい。



○関連行事等について

①講演会「海外交流が生み出した、長崎の美術工芸の魅力」、「海外交流史のなかの近世長崎」、「海を渡った仏たちー長崎地方の仏教文化ー」②ワークショップ「親子でキラキラ☆ガラス玉づくり」、③陶芸ワークショップ「刷毛目で陶芸を深めよう」、④ちいさなワークショップ「ステンドグラス風の小さなかざりをつくろう」、⑤コンサート「涂善祥が奏でる中国琵琶～長崎日中慕情～」、⑥長崎原爆忌、平和への祈りを込めた朗読会、⑦ギャラリートークを行った。①は、展示資料の所蔵館である長崎歴史文化博物館研究員の植松有希氏はじめ、長崎の美術工芸・歴史・仏教文化をテーマに計3回行い、各回30名以上の参加者があった。また、本展では会場として使用しなかった1階ホールを活用するため、中国琵琶の第一人者である涂善祥氏のコンサートを開催し、日本の琵琶とは違う音色に驚かれる方が多く、大変好評であった。長崎原爆忌の朗読会は、会期中に8月9日を迎えること、かわら美術館としてこれまで平和をテーマにした展覧会を開催してきていることから、読み聞かせボランティアをされている方に協力を依頼し、長崎に原子爆弾が投下された日時にあわせて実施した。

○まとめ

本展は、長崎歴史文化博物館の全面的な協力により実現したものである。展示作品は工芸品が中心で、その中でも特にやきものを多く展示した。これまでかわら美術館で多く行ってきた、やきものに関する展覧会の流れの中にも位置づけられる内容となった。また、絵図や絵図や歴史資料も展示し、様々な角度から近世長崎を捉えることができる展覧会であった。歴史資料については、国指定重要文化財である「長崎奉行所関係資料」の中から「犯科帳」を展示し、長崎奉行所の裁判記録を通して長崎貿易の一面を紹介した。

一方で、距離もあってなかなか馴染みのない長崎に少しでも親しんでいただけるよう、講演会やワークショップ、コンサートなど関連行事を多く実施した。事前申込制の一部を除いてはおおむね盛況で、展覧会への動員にも結びついたのではないかなと思う。

当館は美術館ではあるが、博物館の性格も併せ持っており、これまでたびたび瓦以外にも考古・歴史・民俗の分野の展覧会を行っている。今後もかわら美術館ならではのテーマで引きつづき開催したいと考えている。

(4) 特別展「2011 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」について

学芸員 今泉 岳大

「ボローニャ国際絵本原画展」は、イタリア中北部のボローニャ市で毎年行われている絵本原画コンクールの入選作品を展示するもので、当館での開催は今回で7回目を迎えた。今回は世界58カ国から2,836名からの応募があり、そのうち日本人19名を含む76名の入選作家の作品を展示した。

また、特別展示として、2010年ボローニャSM出版賞を受賞したイタリアの作家フィリップ・ジョルダノが手がけた、日本のむかし話『かぐや姫』をテーマとした幻想的で瑞々しい作品の数々もあわせて紹介した。

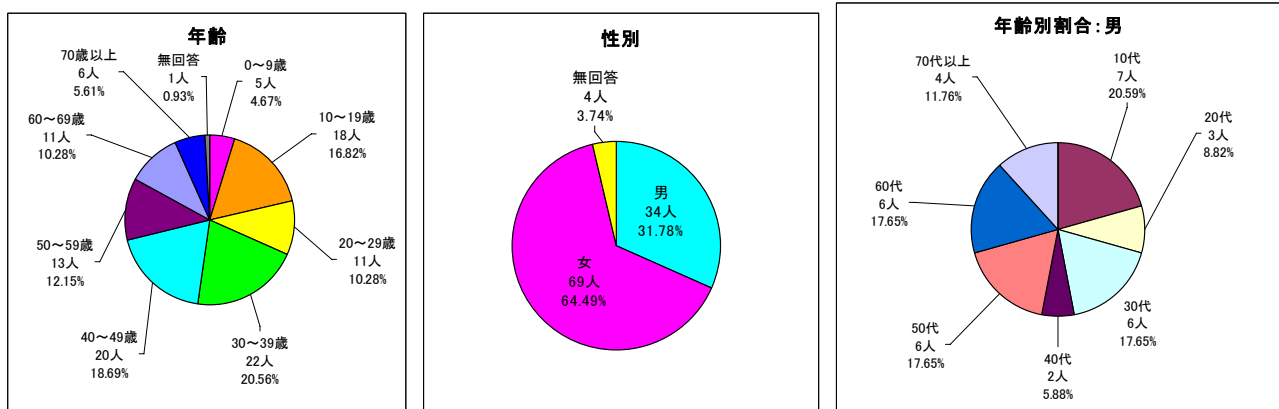
かわいらしいキャラクターが登場する作品から郷愁を誘う落ち着いた雰囲気作品まで、個性豊かなイラストレーションの世界をお楽しみいただいた。

*ボローニャSM出版賞は35歳以下のボローニャ展入選者を対象に、2010年にボローニャブックフェアとスペインのSM財団によって創設された。

○観覧者の傾向

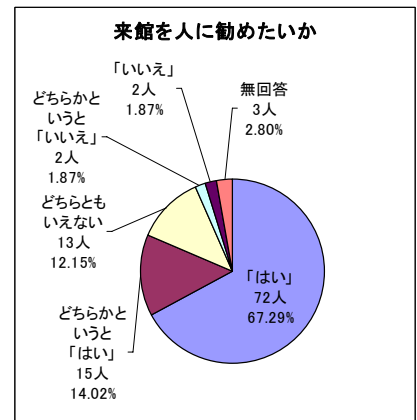
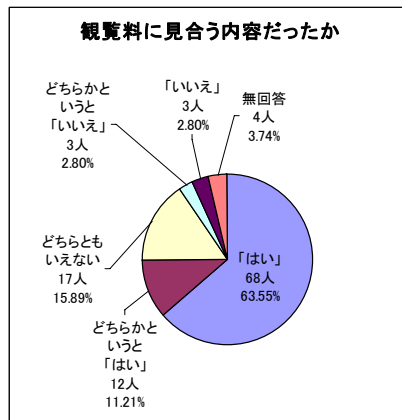
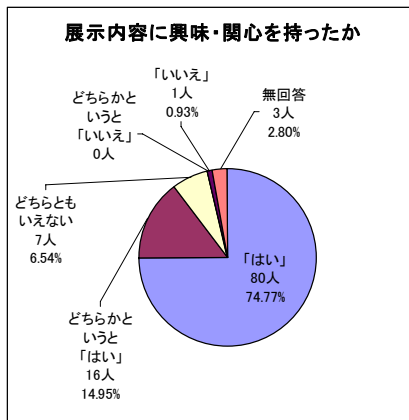
観覧者の総数は7,101人、うち有料観覧者は3,077人(約43.3%)、無料入場者数は4,024人(約56.7%)であった。年齢比率について、アンケート(回収枚数107枚、回収率1.5%)によると、0歳から19歳以下が全体の21.49%、30歳から49歳が30.84%と多くなっている。これは中学生以下の子どもを連れてきた親子が多いということを示しており、例年の絵本展と同様の傾向である。男女比は女性の方が多く、男性31.78%と女性64.49%となっているが、2009年に行われた「2009ボローニャ国際絵本原画展」のときの男性18.37%、女性71.94%に比べて男性の割合は増えている。男性の割合は19歳以下を除くと50代から60代が35.3%と非常に多かった。

無料来場者数が多いのは、中学生以下の来場が多かったため(1,394名)である。



○来館者の反応

今回の特別展示の作家フィリップ・ジョルダノ(イタリア)は日本の「竹取物語」をモチーフに描いた絵本原画(スペインとフランスにて出版)を展示しており、来場者は外国人作家の描いた日本古典文学に興味深そうに鑑賞していた。本作家は日本文化に興味を持っており、特に宮崎駿アニメなどに影響を受けたこともあり、来場者が類似点を指摘したり、繊細な表現を夢中になって鑑賞する様子が印象的だった。



○関連行事について

関連行事としては高浜市立図書館えほんの森読書アドバイザーの方々による読み聞かせや製本作家の都筑晶絵氏を講師に招いた本作りのワークショップ、また体育の日に合わせて行った「紙飛行機選手権」と名づけたワークショップや文化の日のイベントとして、美術館の裏側を探索する「美術館探検ツアー」なども行った。

読み聞かせについては昨年起こった東日本大震災以降、災害対策への意識が高まっていることということから、「稲村の火」という地震と津波をテーマとした大型紙芝居を午前と午後の両プログラムで行い、物語を通して地震後の津波への警戒と早期避難の重要性を訴えた。総計118名の方が参加された。

「美術館探検ツアー」についても参加者総計 92 名と、予想を超える参加者となり、急遽グループに分けてツアーを行うなどして対応した。

どのイベントも多く参加者に恵まれ盛況であった。今後も参加者に満足いただけるイベントを行ってゆきたい。

○まとめ

本展は既に 6 回の開催実績があり、いつも観覧に来ていただける固定ファンの方も多く、高浜市内の学校の先生からも期待の声を頂く展覧会である。市内市外の幼稚園・保育園・小学校・高校・大学からの団体見学もあり、感性を養う教育的催しとしても利用していただいている。

本展は新人の絵本作家の紹介というコンセプトのほかに、新人絵本作家の発掘という目的を持っている。これまで継続して絵本原画展に取り組んできた当館であるが、今後この高浜市から絵本作家が生まれることを期待したい。そのために今後は学校と連携し、市内の子どもを対象としたイベントを発信してゆけたらと考えている。

(5) 特別展「第 21 回 日本陶芸展」について

学芸員 金子 智

1971 年の創設以来隔年で開催され、今回で 21 回目を迎える「日本陶芸展」。毎日新聞社の主催により「実力日本一の作家を選ぶ」日本最大規模の陶磁器作品の公募展である。当館では初、東海地域でも久々の開催となった。

「やきものの里」として、「陶芸」は当館における展示の重要なコンセプトのひとつとなっている。本展は、先に休止となった「朝日陶芸展」に代わるものとして、より幅広い現代陶芸公募展の魅力を紹介するため、開催したものである。

○展示作品について

作品は大きく公募部門と招待部門に分かれている。このうち中心となる公募部門は、第 1 部（伝統部門）、第 2 部（自由造形部門）、第 3 部（実用部門）に細分され、今回は計 135 点の入賞・入選作品を展示した。内訳は伝統部門 83 点（うち入賞 3 点）、自由造形部門 28 点（うち入賞 2 点）、実用部門 24 点（うち入賞 2 点）で、応募数を反映して伝統部門が過半を占める。招待部門は人間国宝やベテランの陶芸作家による 13 点で、総数は計 148 点である。

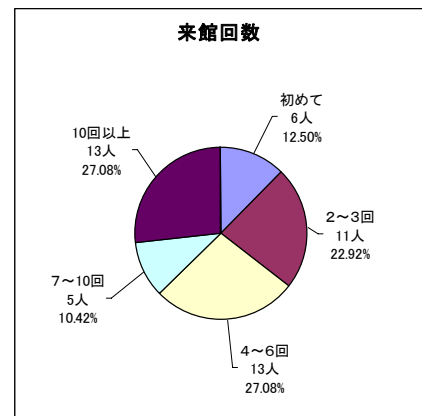
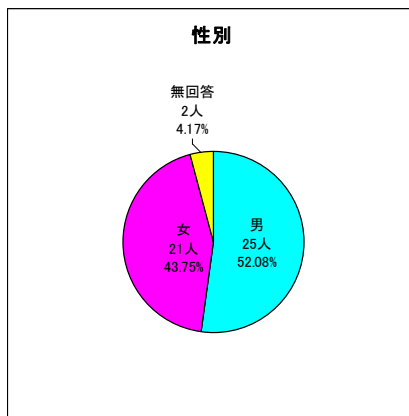
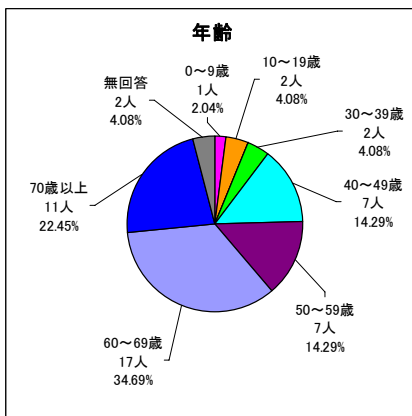
展示はスペースを考慮し、1 階を第 2 部自由造形部門および第 3 部実用部門とし、それぞれの入賞作品についてはそれぞれのコーナーに展示した。2 階は入口付近に大賞、準大賞、伝統部門入賞作品を配置し、招待作品、次いでギャラリーにかけて第 1 部伝統部門を展示した。入選作については作者名五十音順を基本としたが、作品の形状等により適宜配置を調整した。

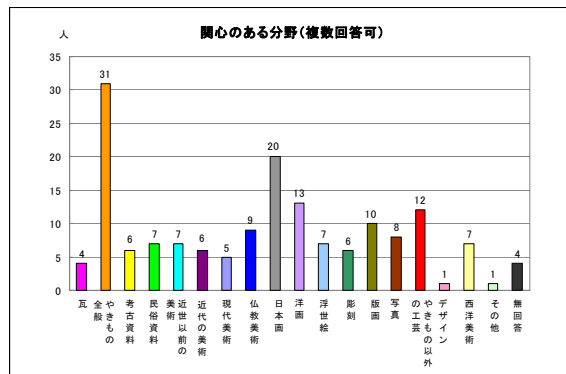
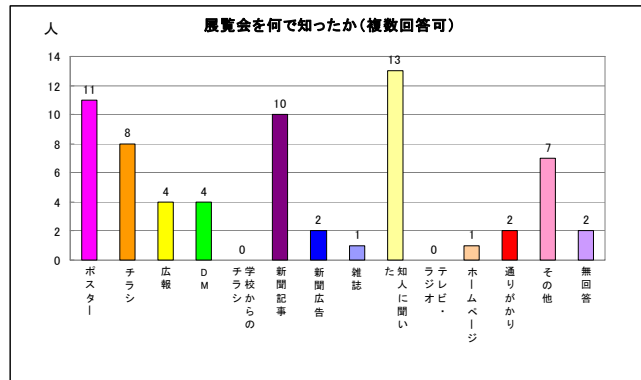
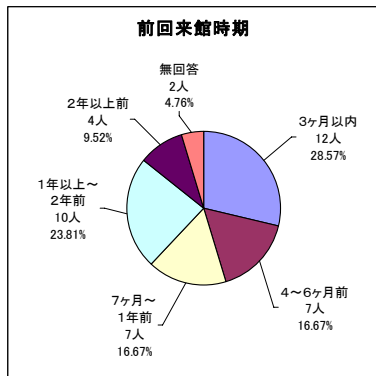
作品内容は、公募作品ということで、印象の強い大振りのものが多く、実用部門の主体を占める組皿も径 20cm 以上の展示映えする作品が中心であった。ただ応募要件の関係で、自由造形部門については以前行っていた朝日陶芸展よりも作品全体がやや小振りとなっている。

○観覧者の傾向と反応

総観覧者数は 3,691 人で、アンケート結果（回収枚数 48 枚、回収枚数 1.3%）によると 40 代以上が 8 割以上を占め、男性が 50%強と他の展覧会と比べ高い率を示している。母数が少ないものの、中高年男性の来館が多かったことが窺われ、他の美術展（絵本展など）とはやや異なる客層であったといえる。

そのほかアンケートをみると、来館回数では、初めての来館者は 13%ほどと少なく、再来館者についても半年以上前に来館されている方が半数を占める。これは朝日陶芸展や魯山人展に来館された陶芸ファンのリピーターが多く来館されたものと考えられる。実際、展示室では以前の朝日陶芸展を見たという来館者も多く、「（自由造形に特化されていた）朝日陶芸展よりもなじみやすい」というような意見も聞かれた。全体に作品の美しさを好評される意見が多かった印象である。





展覧会を知った契機は、アンケートでは、毎日新聞の記事のほか「知人に聞いた」口コミの方が目立ち、「ポスター」がこれに続く。仲間内あるいは身近で知って、来館されている傾向が見受けられる。居住地は県内が多いが、県外（岐阜）を含めると 16 市町にわたっており、幅広い地域からやきものに興味を持つ方が来られていたと考えることができよう。「関心のある分野」で「やきもの全般」が突出しているのもこれを裏付ける。

○関連行事等について

関連行事として、日本陶芸展の審査員・運営委員を務めておられる岐阜県現代陶芸美術館の榎本徹館長による講演会、陶芸作家森克徳先生による陶芸ワークショップ、ギャラリートーク（2回）を行った。また期間中、春分の日に日時計を作るちいさなワークショップ、トーンチャイムを用いた音楽ワークショップ、ロビーコンサート（3回）を開催した。

講演会は「陶芸公募展のむかしと今」と題し、近代の陶芸がどのようにして生まれ、展覧会とどのようにかかわってきたのかという内容で行われた。参加予約者が 10 名強と少なかったが、当日参加の方が予想外に多く、椅子を追加して対応した。陶芸に興味のある中高年の参加者が目立ち、熱心に聞き入る姿が印象的であった。

陶芸ワークショップは、市内在住で本展でも入選されている森先生の指導のもと、花器の制作を行った。子どもから高齢の方、ベテランの方から初心者まで、幅広い参加者があり、好評であった。恒例のちいさなワークショップ、今年度から開始したコンサートボランティアの指導による音楽ワークショップともにもまずまずの参加があり、実体験型のイベントへの人気が高いことを印象付ける結果となった。

○まとめ

第 46 回朝日陶芸展以来、3 年ぶりの陶芸公募展の開催となった。観覧者数は目標とした 4,500 人に届かず、やや低調であったが、これは主催新聞社の広報力も一因と思われる。実際に来館された方々の反応は非常に良かったことから、広い範囲に展示の魅力を周知することができれば、より幅広い集客が期待できるものと思われる。

比較的客層に限られる印象のある陶芸展であるが、いわゆる陶芸ファンの方々以外からも作品に対する高い評価が得られ、陶芸公募展に対する潜在的な需要もうかがわれる。やきものの魅力を広く市民に知らせ、陶芸教室とともにやきもの文化の発展を促すものとして、今後も陶芸展をかかわら美術館の展示の核のひとつとして、今後も幅広く展開していきたい。

展覧会名	開催日時	内容	講師等	開催場所	参加者数
齋藤吾朗 の全活動 を語ろ う、具展	4月30日(土) ① 午前10時～正午 ② 午後1時～3時30分	作家による講演会	画家 齋藤吾朗氏	講義室	① 43名 ② 63名
	4月30日(土) 午前10時～午後4時	呈茶 「美術館で抹茶を味わおう」	高浜市文化協会 清水昭子氏ほか	ロビー	150名
	5月15日(日) 午後1時30分～	ワークショップ 「油絵に挑戦！親子で肖像画 を描き合おう」	画家 齋藤吾朗氏	スタジオ	21名
	4月29日(金・祝) ① 午前10時～正午 ② 午後1時～4時	昭和の日ちいさなワークショ ップ「わりばしでえんぴつオブ ジェをつくろう」	当館学芸員	ロビー	計34名
	5月5日(水・祝) ① 午前10時～正午 ② 午後1時～4時	こどもの日ちいさなワークショ ップ「小石にペイント！想いを 込めた石文づくり！」	当館学芸員	ロビー	計32名
	4月17日(日) 5月22日(日) 各日午後2時～	ギャラリートーク	当館学芸員 画家 齋藤吾朗氏	展示室内	① 16名 ② 27名
クレパス 画名作展	7月10日(日) 午後2時～3時30分	講演会「似てるぞ！日本と西洋 の巨匠」	現代美術作家 山田彊一氏	講義室	84名
	7月3日(日) 午前10時～正午	ワークショップ 「親子で挑戦！楽しい色いろ いろ」	サクラアートミュー ジウム主任学芸員 清水靖子氏	スタジオ	10組20名
	7月3日(日) 午後1時～4時	ワークショップ 「大人のためのクレパス画教 室」	サクラアートミュー ジウム主任学芸員 清水靖子氏	スタジオ	20名
	6月26日(日) ① 午前9時30分～正午 ② 午後1時30分～4時	ワークショップ 「クレパス画風の絵付け皿に チャレンジ」	当館陶芸指導員	陶芸創作室	① 28名 ② 33名
	7月18日(月・祝) ① 午前10時～正午 ② 午後1時～4時	海の日ちいさなワークショッ プ「色とりどりの魚で水族館」	当館学芸員	ロビー	計120名
	① 6月19日(月・祝) ② 7月16日(土) 各日午後2時～	ギャラリートーク	当館学芸員	展示室内	① 42名 ② 25名
長崎歴史 文化博物 館収蔵品 展	8月27日(日) 午後1時30分～3時	講演会① 「海外交流が生み出した、長崎 の美術工芸の魅力」	長崎歴史文化博物館 研究員 植松有希氏	講義室	30名
	9月4日(日) 午後1時30分～3時	講演会② 「海外交流史のなかの近世長 崎」	名古屋大学文学部 教授 池内 敏氏	講義室	30名
	9月11日(日) 午後1時30分～3時	講演会③ 「海を渡った仏たちー長崎地 方の仏教文化」	当館館長 井口喜晴	講義室	36名
	8月20日(日) 午後2時～4時	ワークショップ 「親子でキラキラ☆ガラス玉 づくり」	当館学芸員	スタジオ	15名
	8月21日(日) 午前9時30分 ～午後4時	陶芸ワークショップ 「刷毛目で陶芸を深めよう」	当館陶芸指導員	陶芸創作室	3名
	11月3日(水・祝) ① 午前10時～正午 ② 午後1時～4時	ちいさなワークショップ 「スタンドグラス風の小さな かざりをつくろう」	当館学芸員	ロビー	計51名
	9月10日(土) ① 午後1時30分～2時 ② 午後3時～3時30分	コンサート「涂善祥が奏でる中 国琵琶～長崎日中慕情～」	上海音楽学院客座教 授 涂 善祥氏	ホール	① 91名 ② 53名

長崎歴史文化博物館収蔵品展	8月9日(火) 午前11時～	朗読会 「長崎原爆忌、平和への祈りを込めた朗読会」	長谷川のぞ美氏 松本 仁氏 山田千恵子氏 (演奏) 石川朋子氏	ロビー	43名
	8月28日(日) 9月23日(金・祝) 各日午後2時～	ギャラリートーク	当館学芸員	展示室内	① 32名 ② 38名
2011 イタリア・ポーロニヤ国際絵本原画展	10月23日(日) 午後1時30分～4時30分	ワークショップ 「蛇腹折りの本づくり」	製本作家 都筑晶絵氏	講義室	28名
	10月16日(日) ① 午前11時～ ② 午後2時30分～	絵本読み聞かせ 「美術館で聞く秋の絵本読み聞かせ」	高浜市立図書館 えほんの森読書アドバイザーの方々	ロビー	計118名
	10月10日(月・祝) ① 午前10時～正午 ② 午後2時～4時	ちいさなワークショップ 「体育の日・紙飛行機選手権 in かわら美術館」	当館学芸員	ロビー	計97名
	11月3日(木・祝) ① 午前10時～ ② 午後1時～ ③ 午後3時～	文化の日「美術館探検ツアー」	当館学芸員、	館内	計92名
	① 10月16日(日) ② 11月6日(日) 各日午後1時30分～	ギャラリートーク	当館学芸員	展示室内	① 19名 ② 32名
八奏工芸展	12月18日(日) 午前10時～正午	ワークショップ 「絞り技法によるハンカチ作り」(染色)	新野素子氏 塚原衣里子氏 山内幸子氏	スタジオ	21名
	12月18日(日) 午後2時～4時	ワークショップ 「人形のストラップ作り」	永井はな子氏 有馬知佳子氏	スタジオ	25名
新収蔵品展	2月5日(日) 午後2時～4時	講演会 「写真家芳賀日出男の活動の軌跡と花祭について」	写真家 芳賀日出男氏	講義室	52名
	① 1月22日(日) ② 2月11日(土・祝) 各日午後2時～	ギャラリートーク	当館学芸員	展示室内	① 6名 ② 2名
第21回日本陶芸展	3月4日(日) 午後2時～3時30分	講演会 「陶芸公募展のむかしと今」	岐阜県現代陶芸美術館 館長 榎本 徹氏	講義室	42名
	2月19日(日) 午前10時～正午	陶芸ワークショップ 「板作りによる装飾的な花器づくり」	陶芸作家 森 克徳氏	陶芸創作室	12名
	3月20日(火・祝) ① 午前10時～正午 ② 午後2時～4時	ちいさなワークショップ 「春分の日 日時計をつくろう」	当館学芸員	ロビー	計41名
	① 2月25日(土) ② 3月11日(日) 各日午後2時～	ギャラリートーク	当館学芸員	展示室内	① 13名 ② 23名

2 陶芸創作（※開催場所：陶芸創作室）

(1) 陶芸創作体験

- 目的** 一般的な陶芸の成型手法（手びねり、タタラづくり等）による花瓶、茶碗づくり、鬼面の型抜きなど。
- 開催日時** 毎日＜半日体験＞
【午前の部】 午前 9 時 30 分～正午（最終受付は午前 10 時まで）
【午後の部】 午後 1 時 30 分～4 時（最終受付は午後 2 時まで）
 ※休館日（毎月曜日〈祝日の場合は翌平日〉、12 月 28 日～1 月 1 日）は除く。
- 定員** 各部 40 名（陶芸絵付体験と合わせて）
 ※陶芸教室の開催などにより変更することがある。
- 費用** **【高校生以上】** 1,100 円（陶芸創作室使用料、粘土代〈1kg〉、焼成料）
【中学生以下】 500 円（陶芸創作室使用料、焼成料）
 ※粘土 1kg で茶碗と湯のみを各 1 個程度、あるいは丸皿を 3 枚程度つくることができる。
 ※作品完成の案内のため完成通知のハガキ(50 円)を別途販売。希望者には有料にて宅配。
- 申込受付** ミュージアムショップ ※予約及び団体利用の相談可

(2) 陶芸絵付体験

- 目的** 素焼きの皿またはカップに簡単な模様や好きな絵を描く。
- 開催日時** 毎日＜半日体験＞
【午前の部】 午前 9 時 30 分～正午（最終受付は午前 10 時まで）
【午後の部】 午後 1 時 30 分～4 時（最終受付は午後 2 時まで）
 ※休館日（毎月曜日〈祝日の場合はその翌平日〉、12 月 28 日～1 月 1 日）は除く。
- 定員** 各部 40 名（陶芸創作体験と合わせて）
 ※陶芸教室の開催などにより変更することがある。
- 費用** **【高校生以上】** 800 円（陶芸創作室使用料、素焼き製品代、焼成料）
【中学生以下】 500 円（陶芸創作室使用料、焼成料）
 ※素焼き製品代…皿 1 枚 300 円、カップ 1 個 300 円
 （3 個以内。中学生以下の場合は、皿 1 枚またはカップ 1 個の素焼き製品代を免除）
 ※作品完成の案内のため完成通知のハガキ(50 円)を別途販売。希望者には有料にて宅配。
- 申込受付** ミュージアムショップ ※予約及び団体利用の相談可

(3) 初級者電動ロクロ教室

- 目的** 土練りから芯出しまで、電動ロクロによる粘土成形技術の基礎を習得する。
- 開催時間** 午後 1 時 30 分～4 時（最終日のみ午前 9 時 30 分～正午）
- 費用** 8,500 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料、最終回お菓子代、修了証発行代）
- 内容**

回	区分	作品	製作個数	使用粘土
1	基礎	①ロクロに慣れよう！ 土練り・芯出し・引き上げ技法の習得		3.0 kg
2	練習	②技法の習得！ 土練り・芯出し・引き上げ技法の復習		3.0 kg
3	製作	③作品をつくってみよう！ マグカップづくりを極める	4	3.0 kg
4		④作品をつくってみよう！ 茶碗・小鉢にチャレンジ	3	3.0 kg
5		⑤作品をつくってみよう！ 復習、オリジナル作品づくり	3～4	3.0 kg
6		⑥作品をつくってみよう！ 大きな器づくりにチャレンジ	2	3.0 kg
7	施釉	⑦色づけをしよう！ 作品の手直し、全作品の色づけ	12～13	
8	修了式	⑧修了証授与 MY 食器をつかってみよう		

① 上期

開催日程<全8回コース>

Aコース(木・金曜日:4月21日・22日・28日・29日・5月5日・6日、20日、6月19日)

Bコース(土・日曜日:4月23日・24日・30日・5月1日・7日・8日、21日、6月19日)

参加者数 Aコース14名

Bコース11名

② 下期

開催日程<全8回コース>

Aコース(木・金曜日:10月13日・14日・20日・21日・27日・28日、11月11日、12月11日)

Bコース(土・日曜日:10月15日・16日・22日・23日・29日・30日、11月12日、12月11日)

参加者数 Aコース10名

Bコース2名

(4) 中級者電動ロクロ教室

目的 電動ロクロによるより高度な粘土成形技術を習得する。

開催時間 午後1時30分~4時(最終日のみ午前9時30分~正午)

費用 9,900円(受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料、最終回お茶代、修了証発行代)

内容

回	区分	作品	製作個数	使用粘土
1	製作	①電動ロクロを使ってみよう! 説明、小物器づくり	3~4	3.0kg
2		②作品をつくってみよう! 長皿づくり	2~3	3.0kg
3		③作品をつくってみよう! 蓋物づくり	4	3.0kg
4		④作品をつくってみよう! 大物器づくり	3	3.0kg
5		⑤作品をつくってみよう! 手付花器づくり	3~4	3.0kg
6		⑥作品をつくってみよう! 自由創作:新しい作品づくり	2	3.0kg
7	施釉	⑦作品仕上げ 作品の手直し、色づけ	12~13	
8	修了式	⑧修了証授与 MY食器をつかってみよう		

① 上期

開催日程<全8回コース>

Aコース(木・金曜日:6月2日・3日・9日・10日・16日・17日、7月8日、7月31日)

Bコース(土・日曜日:6月4日・5日・11日・12日・18日・19日、7月9日、7月31日)

参加者数 Aコース14名

Bコース10名

② 下期

開催日程<全8回コース>

Aコース(木・金曜日:11月17日・18日・24日・25日・12月1日・2日・16日、1月8日)

Bコース(土・日曜日:11月19日・20日・26日・27日・12月3日・4日・17日、1月8日)

参加者数 Aコース8名

Bコース2名

(5) 上級者電動ロクロ教室

目的 電動ロクロによるさらに高度な粘土成形技術を習得する。

開催時間 午後1時30分~4時(最終日のみ午前9時30分~正午)

費用 10,500円(受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料、最終回お茶代、修了証発行代)

内 容

回	区分	作品	製作個数	使用粘土
1	製作	①練りこみ技法の器づくり	5	3.0 kg
2		②前日の仕上げ、鶴首花入れづくり	2	3.0 kg
3		③重箱づくり	1	3.0 kg
4		④前日の仕上げ		
5		⑤急須づくり	1	3.0kg
6		⑥前日の仕上げ		
7	施釉	⑦全作品の施釉	9	
8	修了式	⑧修了証授与 MY 食器をつかってみよう		

① 上 期

開催日程＜全 8 回コース＞

A コース（木・金曜日：7 月 28 日・29 日・8 月 4 日・5 日・11 日・12 日、9 月 2 日、25 日）

B コース（土・日曜日：7 月 30 日・31 日・8 月 6 日・7 日・13 日・14 日、9 月 3 日、25 日）

参加者数 A コース 10 名

B コース 8 名

② 下 期

開催日程＜全 8 回コース＞

A コース（木・金曜日：1 月 12 日・13 日・19 日・20 日・26 日・27 日・2 月 17 日、3 月 18 日）

B コース（土・日曜日：1 月 14 日・15 日・21 日・22 日・28 日・29 日・2 月 18 日、3 月 18 日）

参加者数 A コース 5 名

B コース 2 名

(6) 半日イベント講座

目 的 地場産業である瓦・やきものに親しんでいただくために、土に触れ創造・創作する喜びとやきものづくりを楽しむ講座。

① GW 特別企画 シーサーをつくろう！

内 容 可愛さ満点のオリジナルシーサーをつくる

開催日時 5 月 3 日（月・祝）午後 1 時 30 分～4 時

講 師 当館陶芸指導員

費 用 高校生以上 1,600 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 800 円（焼成料、粘土 1kg 追加代、陶芸室使用料）

参加者数 24 名

② GW 特別企画 親子で陶芸をたのしもう

内 容 こどもの日に親子で一緒に湯呑やお茶碗をつくる

開催日時 5 月 5 日（水・祝）午前 9 時 30 分～正午

講 師 当館陶芸指導員

費 用 高校生以上 1,000 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 450 円（焼成料、陶芸室使用料）

参加者数 23 名

③ お地藏さんをつくろう

内 容 手のひらサイズの表情豊かな、かわいいオリジナル地藏をつくる

開催日時 5 月 22 日（日）午後 1 時 30 分～4 時

講 師 当館陶芸指導員

費用 高校生以上 1,000 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 450 円（焼成料、陶芸室使用料）
参加者数 21 名

④ 特別展「クレパス画名作展」コラボ企画 クレパス画風の絵付け皿にチャレンジ

内容 陶芸用パステルを使って、クレパス画風の絵付け皿をつくる
開催日時 6月26日（日）
Aコース：午前9時30分～正午 Bコース：午後1時30分～午後4時
講師 当館陶芸指導員
費用 高校生以上 1,600 円（受講料、材料費、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 800 円（焼成料、材料費、陶芸室使用料）
参加者数 Aコース 28 人 Bコース 33 人

⑤ 敬老の日ふれぜんと ちゃわんセットをつくろう

内容 敬老の日のプレゼントとして茶碗のセットを製作（包装してお渡し）
開催日時 7月10日（土）午後1時30分～4時
講師 当館陶芸指導員
費用 高校生以上 1,000 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料、包装代）
中学生以下 450 円（焼成料、陶芸室使用料、包装代）
参加者数 35 名

⑥ 特別展「長崎歴史文化博物館収蔵品展」コラボ企画 刷毛目で陶芸を深めよう

内容 長崎・現川焼風の刷毛目を施した作品をつくる
開催日時 8月21日（日）午前9時30分～午後4時
講師 当館陶芸指導員
費用 高校生以上 1,600 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 800 円（焼成料、粘土 1kg 追加代、陶芸室使用料）
参加者数 3 人

⑦ 陶器リースで☆クリスマスを彩ろう☆

内容 クリスマスにちなんだ手づくりのリースをつくる
開催日時 10月9日（日）午後1時30分～4時
講師 当館陶芸指導員
費用 高校生以上 1,600 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 800 円（焼成料、粘土 1kg 追加代、陶芸室使用料）
参加者数 31 名

⑧ 干支づくり“辰”をつくろう

内容 手のひらサイズで、平成24年の干支“辰”をつくる
開催日時 11月6日（日）午後1時30分～4時
講師 当館陶芸指導員
費用 高校生以上 1,000 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 450 円（焼成料、陶芸室使用料）
参加者数 36 名

⑨ 開運第1講座”鶴“をつくろう

内容 開運をもたらす“鶴”の置物をつくる
開催日時 12月11日（日）午後1時30分～4時
講師 当館陶芸指導員

費用 高校生以上 1,000 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 450 円（焼成料、陶芸室使用料）
参加者数 10 名

⑩ ひな祭り“ひな人形”づくり

内容 ひなまつりにあわせて、手のひらサイズのかわいい手作りのひな人形をつくる
開催日時 1月9日（月・祝）午後1時30分～4時
講師 当館陶芸指導員
費用 高校生以上 1,600 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 800 円（焼成料、粘土 1kg 追加代陶芸室使用料）
参加者数 36 名

⑪ 開運第2講座”亀“をつくろう

内容 開運をもたらす“亀”の置物をつくる
開催日時 1月22日（日）午前9時30分～正午
講師 当館陶芸指導員
費用 高校生以上 1,000 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 450 円（焼成料、陶芸室使用料）
参加者数 7 名

⑫ 横井指導員「ぶたづくり」講座

内容 横井陶芸指導員の得意分野を活かし、個性的なぶた作品をつくる
開催日時 1月28日（土）午前9時30分～正午
講師 当館陶芸指導員 横井鎮司
費用 高校生以上 1,600 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 800 円（焼成料、粘土 1kg 追加代、陶芸室使用料）
参加者数 10 名

⑬ 藤田指導員「時計文字盤づくり」講座

内容 藤田陶芸指導員の得意分野を活かし、オリジナルの時計の文字盤をつくる
開催日時 2月11日（土）午前9時30分～正午
講師 当館陶芸指導員 藤田徳太
費用 高校生以上 1,500 円（受講料、粘土代、焼成料、材料代、陶芸室使用料）
中学生以下 950 円（焼成料、材料代、陶芸室使用料）
参加者数 14 名

⑭ 澤田指導員「ひし型花入れづくり」講座

内容 澤田陶芸指導員の得意分野を活かし、オリジナルのひし形の花入れをつくる
開催日時 2月25日（土）午前9時30分～正午
講師 当館陶芸指導員 澤田朋大
費用 高校生以上 1,600 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 800 円（焼成料、粘土 1kg 追加代、陶芸室使用料）
参加者数 7 名

⑮ 「練りこみ」教室

内容 着色粘土を組み合わせる「練りこみ」の作品をつくる
開催日時 3月3日（土）午後1時30分～4時
講師 当館陶芸指導員

費用 高校生以上 1,600 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 800 円（焼成料、粘土 1kg 追加代、陶芸室使用料）
参加者数 5 名

⑩ 端午の節句“かぶと”をつくろう

内容 陶器のかぶとやこいのぼりで、新しい端午の節句をお祝いする
開催日時 3 月 11 日（日）午後 1 時 30 分～4 時
講師 当館陶芸指導員
費用 高校生以上 1,600 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 800 円（焼成料、粘土 1kg 追加代、陶芸室使用料）
参加者数 13 名

⑪ 山本指導員「招き犬づくり」講座

内容 山本陶芸指導員の得意分野を活かし、オリジナルの「招き犬」をつくる
開催日時 3 月 17 日（土）午前 9 時 30 分～正午
講師 当館陶芸指導員 山本一圭
費用 高校生以上 1,600 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 800 円（焼成料、粘土 1kg 追加代、陶芸室使用料）
参加者数 13 名

⑫ 「象嵌技法」教室

内容 粘土に文様を彫り込んだ「象嵌技法」に挑戦する
開催日時 3 月 24 日（土）午後 1 時 30 分～4 時
講師 当館陶芸指導員
費用 高校生以上 1,600 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
中学生以下 800 円（焼成料、粘土 1kg 追加代、陶芸室使用料）
参加者数 15 名

(7) 鬼あかりづくり

内容 10 月 15 日（土）に開催した「鬼みちまつり」会場へ展示する陶製ランプシェードを制作
開催日時 7 月 23 日（土）① 午前 9 時 30 分～正午、② 午後 1 時 30 分～4 時
7 月 24 日（日）③ 午前 9 時 30 分～正午、④ 午後 1 時 30 分～4 時
会場 陶芸創作室
講師 当館陶芸指導員・三州鬼板師
費用 高校生以上 1,600 円（粘土代、陶芸室使用料、焼成料）
中学生以下 1,000 円（粘土 1kg 追加料、陶芸室使用料、焼成料）
参加者数 ① 13 名、② 22 名、③ 26 名、④ 20 名

3 その他の教育普及文化活動

(1) コンサートボランティア

内 容 市民の音楽活動を支援し、館で保有しているスタインウェイ社製のグランドピアノを活用するため、美術館ロビーやホールでのコンサートおよびワークショップを企画・運営をするボランティアを募集した。ボランティアは1年ごとの登録制で、学校で音楽科を専攻するなど音楽の勉強やコンサートなどの演奏活動に取り組んでいる16歳以上の方を対象とし、ピアノ使用料は無料としている。また、コンサート内容の幅を広げるため、演奏楽器をピアノに限定せず、様々な楽器の演奏経験豊富な16歳以上の方も対象としている。本年度からは、新たに市民に音楽に親しんでいただくための「音楽ワークショップ」を開催し、ご協力いただいている。

登録人数 15組 16名

ロビーコンサート開催内容一覧

開催日時	内容	出演者等	参加者数
5月1日(日) 午後2時～	「森祥子のピアノの世界～音楽物語と自作品発表」	森祥子(ピアノ)	60名
5月7日(土) 午後2時～	「サウンド オブ ミュージックの世界へ」	深谷香織(フルート・ピアノ)、 尾崎智子(ソプラノ)、 杉浦千咲(ピアノ)	64名
5月8日(日) 午後2時～	「トーンチャイムコンサート」	RAKUDA チャイムクワイア	69名
7月17日(日) 午後2時～	「 <small>オカヤ テーゲークラブ</small> okaya-tegeclub登場! サイモン&ガーファンクルヒット曲集 から感動のオリジナル曲まで」	HIROFUMI (g. vo)、 O・K・A (g)、 布施院 (per)	83名
7月23日(土) 午後2時～	「懐かしのメドレー」	森藤さちよ(ピアノ)	87名
7月24日(日) 午後2時～	「クインテットの楽しみ」	酒井絢子(ピアノ)、 坂本実奈美(フルート)、 加藤由佳(ヴァイオリン)、 富岡怜子(ヴィオラ)、 小川真貴(チェロ)	102名
9月17日(土) 午後2時～	「秋～それぞれの思い出」	コーロ・プリランテ (声楽アンサンブル)	75名
9月18日(日) 午後2時～	「森祥子のピアノの世界 ～ピアノの音色に酔いしれて～」	森祥子(ピアノ)	77名
10月8日(土) 午前11時～	「ようこそオカリナワールドへ」	高原陽子(オカリナ)	107名
10月23日(日) 午後2時～	「サクソフォーン四重奏の調べ」	杉浦遥(ソプラノサクセス)、 石川貴憲(アルトサクセス)、 金子弘美(テナーサクセス)、 細川玲未(バリトンサクセス)	92名
10月30日(日) 午後2時～	「午後のひととき 11♪」	工藤佐江子・長友理恵(ピアノ)	84名
11月5日(土) 午後2時～	「チェロで旅する世界の国々」	磯村祐子(チェロ)、 市川嘉子(ピアノ)	78名
3月17日(土) 午後2時～	「少し早い春を楽しもう」	深谷香織(フルート)、 尾崎智子(ソプラノ)、 杉浦千咲(ピアノ)	57名
3月18日(日) 午後2時～	「デュオで楽しむ名曲コンサート」	デュオ・ポーローニャ(ピアノ) <近藤聡美・國井真美>& 市川絵里子(ヴァイオリン)	88名

3月24日(土) 午後2時～	「CAPRICCIO!～ユーフォニアム・ チューバカルテット～」	入川恵・高須春奈 (ユーフォニアム)、 山田朋徳・河村未季子(チューバ)	61名
-------------------	-------------------------------------	--	-----

音楽ワークショップ開催内容一覧

開催日時	内容	出演者等	参加者数 会場
8月13日(土) 午前11時～午後3時	「不思議な電子楽器、テルミン・マトリ ヨミンの空間へようこそ☆」	富川貴代氏、矢田英明氏、 ぶきーな西斑氏、hinata氏	106名 ホール
8月14日(日) 午後2時～4時	「体験しようマリリリンバ!!」	神谷紘実氏	41名 ホール
10月8日(日) 午後2時～4時	「大人のためのオカリナ講座」	高原陽子氏 (ライリッシュ・オカリナ連盟)	20名 スタジオ
2月26日(日) 午後1時30分～4時	「トーンチャイムに挑戦」	RAKUDA チャイムクワイア	34名 講義室

(2) 他機関との連携

① 7館スタンプラリー

「こどももおとなも夏の自由研究 ミュージアムスタンプラリーでこたえさがし」

内 容 古くからものづくりの中核地域として発展してきた東海地方には、産業の発展を今に伝える「産業文化財」が各地に残され、大切に保存されている。また、それらの資料を公開・展示する博物館・美術館など産業観光施設も数多く設けられている。そこで、「見る」「触れる」「味わう」といった様々な感覚を通して「ものづくりの心」を理解していただくために、産業文化に関連した近隣の7箇所の施設が連携して、各施設を観覧するスタンプラリーを実施した。2館目の施設から各館オリジナルのノベルティを渡して集客を促した。また4館のスタンプを集めた場合、先着300名にスペシャルグッズを進呈した。なお、今年度より夏休みの自由研究に親子で役立てていただけるよう、各館が用意したクイズの答えを見学しながら見つけるという形のスタンプラリーとなった。

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館／有松・鳴海絞会館／INAX ライブミュージアム／
ガスエネルギー館／博物館「酢の里」／盛田・味の館／杉本美術館

開催期間 7月17日(日)～8月31日(水)

参加者数 67名(景品引換者67名、うちスペシャルグッズ引換者30名)

② あいちアートプログラム キッズ・ワークショップ「家のカタチのビニールバルーンづくり」

内 容 あいちアートプログラムは、あいちトリエンナーレ2010の開催成果を県内各地に広め、文化芸術への関心を高めていただくことを目的として、現代美術作品の制作・展示や子どもたちへの文化芸術体験機会の提供、若手芸術家を育成する事業を県が実施したものである。このワークショップは、その中のキッズ・ワークショップの一環として実施した。講師に愛知学泉短期大学の石川博章准教授を招き、ポリ袋を切って繋ぎ合わせ、家の形の大きなビニールバルーンを作った。完成後は家を茶室に見立てて、お茶会を行った。あわせて開催中の「八奏工芸展」を出展作家である陶芸家の森克徳氏にご案内いただいた。

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館

開催期間 12月11日(日)午前9時30分～午後4時

会 場 ホール

参加者数 小学生 23 名

③ 第 10 回「鬼みちまつり」

内 容 「鬼みちまつり」は平成 14 年度より、散策コース「鬼みち」を拠点とし、高浜市のさまざまな伝統文化に触れ、再認識を図りながら市民交流を深めることを目的として開催されている。10 回目を迎えた今回は地場産業・食文化のじまんの紹介、チャラポコ踊りの元気を加え、市民が一体となって「高浜らしさ」の創造を市内外にアピールし誘客した。昨年にひきつづき「鬼」をテーマに「チャラポコ躍り」の衣装、ランプシェードの制作を行った。美術館では開館時間を午後 8 時まで延ばし、マグカップ絵付け体験、陶芸指導員のパフォーマンス、学童を対象にした館内スタンプラリーを実施した。

主 催 鬼みちまつり実行委員会

主 管 高浜市商工会・高浜市観光協会

後 援 高浜市・高浜市教育委員会

開催日時 10 月 15 日（土）午後 2 時～8 時

【絵付け体験】午後 2 時 30 分～5 時

【陶芸指導員のパフォーマンス】

①午後 1 時 30 分～、②午後 2 時 30 分～、③午後 3 時 30 分～

【スタンプラリー】午後 2 時 30 分～

会 場 森前公園・鬼みち沿道

参加者数 絵付け体験 69 名、スタンプラリー 141 名

④ 展示内覧会

内 容 学校と美術館の関係を深め、授業や見学会などで活用していただくために、特別展の内容を広く紹介するとともに、報道関係者への展示広報を兼ね、展示内覧会を行った。

開催日程及び参加者数一覧

展示会名	開催日	参加者数
斎藤吾朗の全活動を語ろう、具展	4 月 8 日（金）	126 名
クレパス画名作展	6 月 10 日（金）	66 名
長崎歴史文化博物館収蔵品展	8 月 5 日（金）	56 名
2011 イタリア・ポローニャ国際絵本原画展	9 月 30 日（金）	64 名
第 21 回 日本陶芸展	2 月 17 日（金）	59 名

⑤ 造形ワークショップ「美術館で先生と遊ぼうⅧ」及び「高浜市児童生徒美術展」

内 容 高浜市内教員及び当館職員が連携し、子どもたちが気軽に造形遊びや美術鑑賞を楽しめる時間を提供することを目的とし、「かざぐるま作り」と「クリスマスグッズ作り」という 2 種類のワークショップを実施した。ワークショップ開催日及びその前日には、高浜市児童生徒美術展も開催した。この開催に合わせて、たかほま夢・未来塾主催による作品展とワークショップ「ふーふー自動車づくり」も実施し、ワークショップには 49 人の参加があった。

主 催 高浜市やきもの里かわら美術館／高浜市教育研究会造形部

開催日時 【ワークショップ】12月18日(日)午前9時～正午
【児童生徒美術展】12月17日(土)午前9時～午後5時
12月18日(日)午前9時～午後2時

会場 ホール

参加費 100円(ワークショップ)

参加者数 ワークショップ16名/児童生徒美術展380名

⑥ コミュニティカフェ「たかはま ざっくばらんなカフェ」の共催(新規事業)

内容 まちづくりや地域の活性化を図る取り組みとして、日本福祉大学と高浜市との連携で設置する高浜市まちづくり研究センターでは、平成23年7月よりコミュニティカフェ「たかはま ざっくばらんなカフェ」を定期的にオープンしている。各回テーマを設け、発表者や参加者が垣根を越えて、文字通りざっくばらんに話をし、交流しあう機会となっている。平成23年度に6回行われたうち、当館では第4回「わたしの思う“たかはまの宝物”」と第5回「アートでまちづくり」を共催した。特に第5回は当館学芸員がプレゼンターとなり、話題を提供した。

主催 日本福祉大学高浜市まちづくり研究センター

企画 日本福祉大学高浜市まちづくり研究センター/かわら美術館(第4回、第5回)

開催日時 第4回 平成23年11月3日(木・祝)午後3時30分～5時30分
第5回 平成23年12月20日(火)午後6時～7時30分

会場 1階ロビー、3階講義室(第4回、第5回)

参加者数 第4回67名、第5回60名

⑦ 職場体験学習の受け入れ

目的 美術館の役割や美術館を支える様々なスタッフの業務内容を理解してもらうことを目的とする。

日程	受入先名	参加者数	内容
1月24日(火) ～26日(木)	高浜市立高浜中学校	生徒1名	陶芸創作室業務補助、館内巡回点検作業同行、展示備品整理、日本陶芸展印刷物配布準備等

⑧ 博物館学芸員実習生の受け入れ

実習期間 8月31日(水)～9月4日(日)午前9時～午後5時

実習生人数 3名

受入大学 名古屋学芸大学、名古屋芸術大学、愛知大学

⑨ 教員10年研修の受け入れ

研修期間 8月18日(木)～8月20日(土)午前9時～午後5時

研修者人数 1名

受入機関 高浜高校

(3) その他

① お正月イベント

内 容 正月開館にあわせ、「おもてなし」をテーマに、お正月気分を味わえるイベントを行った。

開催期間 1月2日(月)・3日(火)
(瓦の特別展示)1月2日(月)～1月29日(日)

- 開催内容
- (1) とりめしバーガー、お茶のふるまい
高浜市の郷土料理「とりめし」を用いた「とりめしバーガー」、西尾市「松鶴園」の粉茶を先着100名にふるまった。
 - (2) 瓦の新春特別展示
三州瓦工業協同組合、三州鬼瓦製造組合、若鬼士会のご協力により、鬼瓦や鯨、飾り瓦などを展示した。
 - (3) 招待券プレゼント
平成24年の干支である「辰」にちなんだものの呈示で、企画展「新収蔵品展—民俗写真の先駆者・芳賀日出男による写真作品を中心に—」の招待券をプレゼントした。
 - (4) 無料コンサート
高浜市文化協会のご協力によるロビーコンサート

開催日時	内容	出演者等
1月2日(月) 午前11時～	和太鼓の演奏	夢童
1月3日(火) 午前11時～	箏曲の演奏	若草乃会

(1) 考古・工芸

瓦	変形重弧文軒平瓦（中国・石佛寺出土か）	1点購入
瓦	変形重弧文軒平瓦（中国・石佛寺出土か）	1点購入
瓦	変形重弧文軒平瓦（中国・石佛寺出土）	1点購入
瓦	変形重弧文軒平瓦（中国・石佛寺出土）	1点購入
瓦	獣面文軒平瓦（中国・白塔出土）	1点購入
瓦	文字文塼（中国・出土地不明）	1点購入
瓦	塩焼フランス型棧瓦（東京都世田谷区旧在本多邸所用）	14点受贈
瓦	均整唐草文軒平・軒棧瓦 他（旧伊藤圭介コレクション）	134点受贈
陶磁器	唐草文磁器板 他（旧伊藤圭介コレクション）	3点受贈
考古	硯（旧伊藤圭介コレクション）	1点受贈
考古	瓦経（伝菩提山経塚出土・理趣経）	2点受贈
拓本	古瓦拓本（旧伊藤圭介コレクション）	1点受贈
瓦	三葉葵紋小菊瓦（愛知・岡崎城出土）	1点受贈
考古	瓦経（小町塚経塚出土か・大日経）	1点受贈

(2) 美術

写真	芳賀日出男 「花祭りーせいどの若者たち」	1点受贈
写真	芳賀日出男 「花祭りー見物人の村人たち」	1点受贈

2 館蔵資料集計表

分類		22年度以前 購入	22年度以前 寄贈	23年度購入	23年度寄贈	合計
一 次 資 料	古美術資料	71			4	75
	近現代美術資料	359	235		2	596
	考古学資料	42	6		4	52
	瓦資料	679	540	6	149	1,374
	民族・人類学資料	12	3			15
二 次 資 料	瓦資料		203			203
	瓦関係資料（道具類）		49			49
	美術資料		37			37
	民俗資料		19			19
合計		1,163	1,092	6	159	2,420

3 館蔵資料貸出状況

年度	分類	作者名	資料名	数量	会期	展覧会名	貸出先
23	瓦		軒丸瓦（白虎）	1	平成23年4月1日 ～平成24年3月31日	西新館 考古展示室 平常展示	奈良国立博物館
	瓦		軒丸瓦（朱雀）	1			
	瓦		半瓦当（饗饗文）	1			
	瓦		半瓦当（饗饗文）	1			
	瓦		半瓦当（饗饗文）	1			
	瓦		半瓦当（饗饗文）	1			
	瓦		半瓦当（双獣文）	1			
	瓦		軒丸瓦（文字銘）	1			
	瓦		軒丸瓦（文字銘）	1			
	瓦		軒丸瓦（文字銘）	1			
	瓦		軒丸瓦（文字銘）	1			
	瓦		軒丸瓦（文字銘）	1			
	瓦		軒丸瓦（雲気文）	1			
	瓦		軒丸瓦（雲気文）	1			
	瓦		軒丸瓦（単弁蓮華文）	1			
	瓦		半瓦当（山形文）	1			

(1) 美術館利用者数

年度	月	展示観覧者			陶芸創作室	合計
		高校生以上	小・中学生	合計		
23	4	2,071	111	2,182	405	2,587
	5	3,984	445	4,429	500	4,929
	6	3,196	363	3,559	879	4,438
	7	6,694	939	7,633	557	8,190
	8	2,009	250	2,259	765	3,024
	9	3,259	150	3,409	373	3,782
	10	3,831	1,019	4,850	592	5,442
	11	2,558	622	3,180	469	3,649
	12	775	66	841	292	1,133
	1	631	80	711	439	1,150
	2	1,288	82	1,370	356	1,726
	3	2,620	181	2,801	519	3,320
計		32,916	4,308	37,224	6,146	43,370

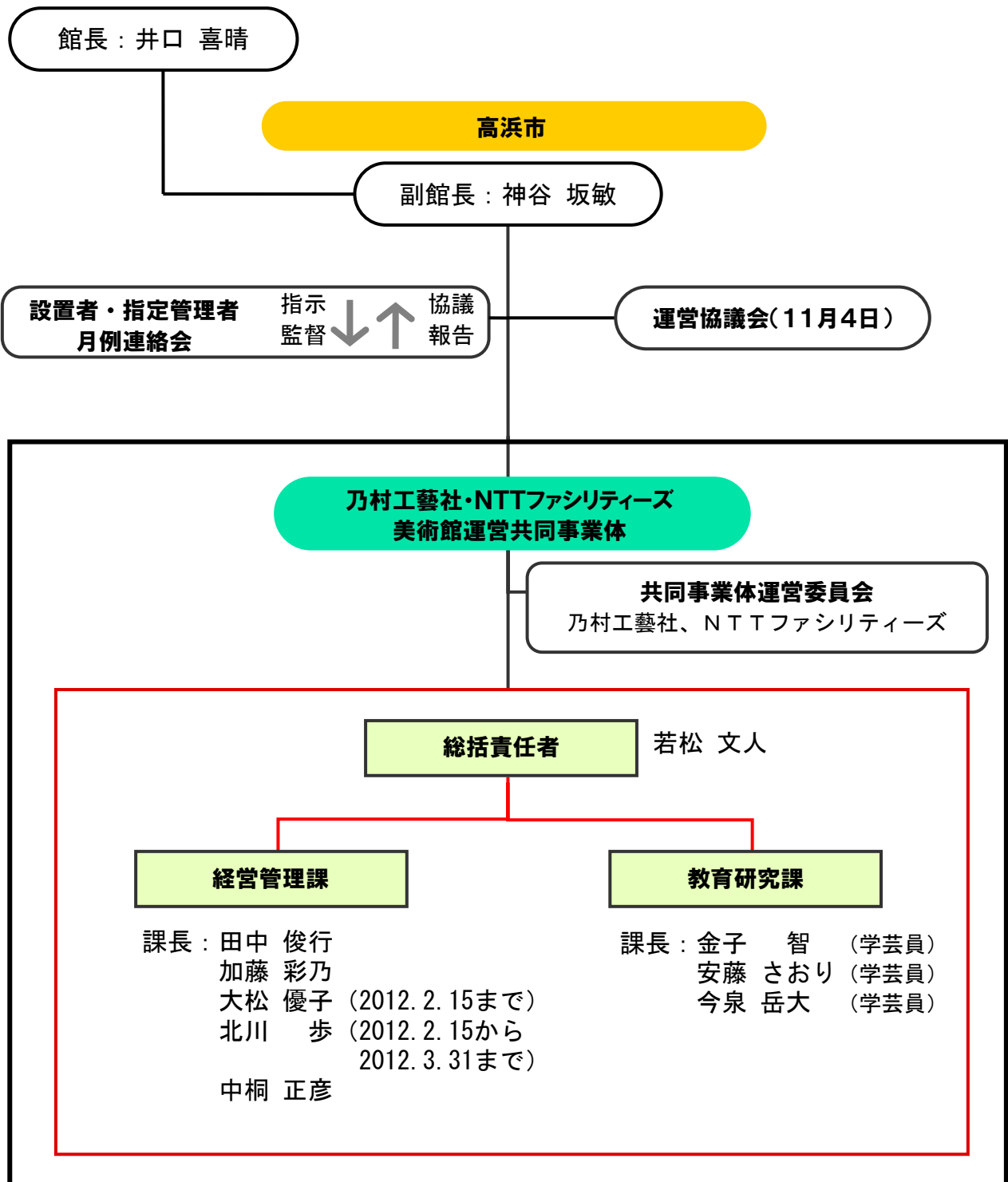
(2) 展覧会別観覧者数

年度	会期	展覧会名	観覧者数		
			高校生以上	小・中学生	合計
23	4月9日～5月29日	斎藤吾朗の全活動を語ろう、具（かじり）展	5,849	529	6,378
	6月11日～7月27日	クレパス画名作展	9,439	1,274	10,713
	8月6日～9月25日	長崎歴史文化博物館収蔵品展	5,194	400	5,594
	10月1日～11月6日	2011 イタリア・ポローニャ国際絵本原画展	5,707	1,394	7,101
	2月18日～3月25日	第21回 日本陶芸展	3,488	203	3,691
	特別展の合間	企画展	2,225	394	2,619
	4月1日～3月31日	常設展	15,602	1,524	17,126

(3) 施設利用者数

年度	月	ホール		スタジオ		講義室・会議室		陶芸創作室		合計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
23	4	1	80	20	257	15	211	405	405	441	953
	5	0	0	16	246	10	120	500	500	526	866
	6	0	0	20	280	13	192	879	879	912	1,351
	7	0	0	22	316	7	189	557	557	586	1,062
	8	3	181	23	341	9	150	765	765	800	1,437
	9	9	519	19	282	17	229	373	373	418	1,403
	10	0	0	25	342	12	249	592	592	629	1,183
	11	10	951	19	261	3	98	469	469	501	1,779
	12	12	1,972	20	369	8	129	292	292	332	2,762
	1	7	707	23	362	6	89	439	439	475	1,597
	2	2	260	23	371	11	250	356	356	392	1,237
	3	2	200	29	383	5	63	519	519	555	1,165
合計		46	4,870	259	3,810	116	1,969	6,146	6,146	6,567	16,795

2 組織図



〇高浜市やきものの里かわら美術館の設置及び管理に関する条例

平成6年12月22日

条例第39号

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、かわらを基本テーマとし、歴史、考古、民俗及び美術工芸に関する資料(以下「美術館資料」という。)を収集し、保管し、展示して一般の利用に供し、市民の教養、調査研究等に資するために必要な事業を行い、あわせて美術館資料に関する調査研究をするため、やきものの里かわら美術館(以下「美術館」という。)を設置する。

(平10条例35・一部改正)

(名称及び位置)

第2条 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
高浜市やきものの里かわら美術館	高浜市青木町九丁目6番地18

(事業)

第3条 美術館は、その目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術館資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 美術館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- (3) 美術館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (4) 美術館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (5) 美術館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (6) 他の美術館等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、美術館資料の相互貸借等を行うこと。
- (7) 学校、図書館、公民館等と協力し、その活動を援助すること。
- (8) 陶芸創作室、ホール、スタジオ等を設置して、利用に供し、又は映画、音楽、舞踊、演劇等の芸術文化活動の振興に必要な事業を行うこと。
- (9) その他教育委員会が必要と認める事業を行うこと。

(観覧料)

第4条 美術館資料の展示を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納付しなければならない。ただし、当該観覧しようとする者が中学生(これに準ずる者を含む。)以下の者であるときは、この限りでない。

- 2 納付された観覧料は、還付しない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。
- 3 市長は、特別の理由があると認めるときは、観覧料を減免し、又は割引をすることができる。

(平14条例21・平成19条例14・一部改正)

(利用の許可)

第5条 美術館の講義室、会議室、陶芸創作室、ホール、ホワイエ、スタジオ又は楽屋を利用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

- 2 美術館資料の模写、模造、撮影、熟覧等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。
- 3 教育委員会は、管理上必要があると認めるときは、前2項の許可に条件を付けることができる。

(利用の制限)

第6条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、前条第1項の許可をしない。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認めるとき。
- (2) 利用の目的が美術に関する展示又は集会その他芸術文化活動以外のものであると認めるとき。
- (3) その他管理上支障があると認めるとき。

2 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、前条第2項の許可をしない。

- (1) 美術館資料を損傷するおそれがあると認めるとき。
- (2) その他管理上支障があると認めるとき。

(使用料及び手数料)

第7条 第5条第1項又は第2項の許可(以下「利用の許可」という。)を受けた者(以下「利用者」という。)は、高浜市使用料及び手数料条例(昭和39年高浜町条例第18号)の定めるところにより使用料又は手数料を納付しなければならない。

(利用者の義務)

第8条 利用者は、美術館の利用に際しては、この条例及びこれに基づく教育委員会規則の規定並びに第5条第3項の規定により許可に付けられた条件及び教育委員会の指示に従うとともに、美術館の秩序を乱すような行為をしてはならない。

(許可の取消し及び利用の中止命令)

第9条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、利用の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

- (1) 利用者が前条の規定に違反したとき。
- (2) 災害その他の事故により美術館の利用ができないとき。
- (3) その他やむを得ない理由があると認めるとき。

(入館の制限)

第10条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。

- (1) 他人に迷惑をかけ、又は美術館の施設若しくは設備、美術館資料等を損傷するおそれがあると認められる者
- (2) 管理上必要な指示に従わない者
- (3) その他管理上支障があると認められる者

(損害賠償)

第11条 美術館の入館者は、故意又は過失によって美術館の施設若しくは設備、美術館資料等を損傷し、又は滅失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会が損害を賠償させることが適当でないとき、この限りでない。

(美術館運営審議会)

第12条 美術館の円滑な運営を図るため、高浜市やきもの里かわら美術館運営審議会(以下「審議会」という。)を置く。

2 審議会は、教育委員会の諮問に応じて、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 美術館の運営に関すること。
- (2) 美術館資料の展示に関すること。
- (3) 美術館資料の購入、寄贈及び寄託に関すること。

3 審議会は、考古・工芸部会、美術部会及び普及部会をもって組織し、それぞれ委員5人以内で構成する。

4 委員は、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

5 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 委員は、再任されることができる。

(職員)

第13条 美術館に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(指定管理者による管理)

第14条 教育委員会は、美術館の設置の目的を効果的に達成するため、指定管理者(地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)に美術館の管理を行わせることができる。

2 指定管理者に美術館の管理を行わせる場合においては、第4条第2項及び第3項中「市長」とあるのは「第14条第1項に規定する指定管理者」と、第5条第1項中「教育委員会」とあるのは「第14条第1項に規定する指定管理者」と、同条第3項中「教育委員会」とあるのは「教育委員会又は第14条第1項に規定する指定管理者」と、「前2項」とあるのは「それぞれ第1項又は前項」と、第6条第1項中「教育委員会」とあるのは「第14条第1項に規定する指定管理者」と、第7条中「高浜市使用料及び手数料条例」とあるのは「この条例並びに高浜市使用料及び手数料条例」と、「使用料」とあるのは「第15条第3号に規定する利用料金」と、第8条から第10条までの規定中「教育委員会」とあるのは「教育委員会又は第14条第1項に規定する指定管理者」として、これらの規定を適用する。

(平19条例14・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲)

第15条 指定管理者は、次に掲げる業務を行う。

(1) 美術館の利用及びその制限に関する業務

(2) 第3条の事業の運営に関する業務

(3) 観覧料等の美術館の利用に係る料金(目的外使用に係るものを除く。以下「利用料金」という。)の徴収に関する業務

(4) 美術館の維持管理に関する業務

(5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める業務

(平19条例14・追加)

(指定管理者が行う管理の基準)

第16条 指定管理者は、法令、高浜市公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成15年高浜市条例第29号)、高浜市個人情報保護条例(平成7年高浜市条例第37号)、この条例及びこの条例に基づく教育委員会規則、美術館の管理運営に関し市と締結した協定その他教育委員会の定めるところに従い、美術館の管理を行わなければならない。

(平19条例14・追加)

(利用料金)

第17条 利用料金は、指定管理者の収入とする。

2 利用料金の額は、この条例に定めるもののほか、高浜市使用料及び手数料条例に定める美術館の利用に係る使用料と同一の額とする。

3 指定管理者は、高浜市使用料及び手数料条例第7条の例により、第4条第3項に規定するもののほか、利用料金の減免を行うことができる。

(平19条例14・追加)

(委任)

第18条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平19条例14・旧第14条線下)

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成7年10月7日から施行する。ただし、第13条及び附則第4項の規定は同年1月1日から、第4条から第7条まで、第12条及び第14条並びに次項及び附則第3項の規定は同年4月1日から施行する。

(やきものの里「高浜」コア施設運営審議会条例の廃止)

- 2 やきものの里「高浜」コア施設運営審議会条例(平成6年高浜市条例第27号)は、廃止する。

(最初に委嘱されるやきものの里かわら美術館運営審議会委員に関する特例)

- 3 第12条の規定の施行後最初に委嘱されるやきものの里かわら美術館運営審議会委員の任期は、同条第5項本文の規定にかかわらず、平成8年9月30日までとする。

(高浜市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

- 4 高浜市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例(昭和37年高浜町条例第2号)の一部を次のように改正する。

[次のよう] 略

附 則(平成10年条例第35号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成14年条例第21号)

この条例は、平成14年4月1日から施行する。

附 則(平成19年条例第14号)

この条例は、平成19年10月1日から施行する。

別表(第4条関係)

(平14条例21・全改、平19条例14・一部改正)

区分	1人1回につき	
	個人	団体(20人以上)
常設展示	200円	160円
企画展示	展示及び観覧に係る実費を勘案してその都度市長が定める額	1人につき個人に係る所定の観覧料の8割に相当する額

○高浜市やきものの里かわら美術館の管理及び運営に関する規則

平成7年3月29日

教委規則第4号

(趣旨)

第1条 この規則は、高浜市やきものの里かわら美術館の設置及び管理に関する条例(平成6年高浜市条例第39号。以下「条例」という。)第18条の規定に基づき、高浜市やきものの里かわら美術館(以下「美術館」という。)の管理及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(平19教委規則6・一部改正)

(観覧時間等)

第2条 条例第4条第1項に規定する美術館資料の展示(以下「美術館資料の展示」という。)を観覧することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。

2 条例第5条第1項に規定する美術館の講義室、会議室、陶芸創作室、ホール、ホワイエ、スタジオ又は楽屋(以下「講義室等」という。)を利用することができる時間は、午前9時から午後9時までとする。

3 教育委員会は、必要があると認めるときは、第1項に規定する観覧時間及び前項に規定する利用時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 美術館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

(1) 毎週月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に該当する場合を除く。)

(2) 休日の翌日(その日が日曜日若しくは月曜日又は休日に当たるときは、その日後において、その日に最も近い日曜日若しくは月曜日又は休日でない日)

(3) 1月1日から4日まで及び12月28日から31日まで

(平8教委規則3・一部改正)

(観覧券の交付)

第4条 美術館資料の展示を観覧しようとする者は、観覧料の納付と引換えに常設展観覧券(様式第1)又はその都度教育委員会が定める様式による企画展観覧券の交付を受けるものとする。

2 団体が観覧券の交付を受けようとするときは、その団体の代表者は、あらかじめ団体観覧券交付申込書(様式第2)を教育委員会に提出しなければならない。

(観覧料の還付)

第5条 条例第4条第2項ただし書の規定により納付された観覧料の全部又は一部を還付することができる場合は、次のとおりとする。

(1) 美術館資料の展示会場へ入場しようとする者の責めに帰することのできない理由によって美術館資料の展示会場へ入場することができなくなったとき。

(2) その他市長が特別の理由があると認めるとき。

(観覧料の減免)

第6条 条例第4条第3項の規定により観覧料を減免することができる場合及びその額は、次のとおりとする。

(1) 次に掲げる場合 観覧料の全額

ア 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する小学校、中学校(中等教育学校の前期課程を含む。)及び特別支援学校の教育活動の一環として児童又は生徒の引率者が観覧する場合

イ アに規定する特別支援学校(高等部に限る。)の教育活動の一環として生徒が観覧する場合

(2) 次に掲げる手帳のいずれかの交付を受けている者及びその介護者が当該手帳を係員に提示し、

確認を受けて観覧する場合 観覧料の2分の1

ア 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条に規定する身体障害者手帳

イ 知的障害者福祉法(昭和35年法律第37号)第12条第1項に規定する知的障害者更生相談所又は児童福祉法(昭和22年法律第164号)第12条第1項に規定する児童相談所の発行する療育手帳

ウ 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳

(3) 次に掲げる優待券又は受給者証のいずれかの交付を受けている者が当該優待券又は受給者証を係員に提示し、確認を受けて観覧する場合 観覧料の2分の1

ア 市長の発行するやきものの里かわら美術館シルバー優待券

イ 高齢者の医療の確保に関する法律(昭和57年法律第80号)による被保険者証

(4) 本市に住所を有する旨を証明する書類を係員に提示し、確認を受けて観覧する場合 観覧料の10分の2

(5) その他市長が特別の理由があると認める場合 その都度市長が定める額

(平7教委規則9・平10教委規則12・平11教委規則5・平14教委規則6・平17教委規則4・平19教委規則3・平20教委規則5・一部改正)

(観覧料減免申請の手続)

第7条 前条第1号又は第5号の規定により観覧料の減免を受けようとする者は、観覧料減免申請書(様式第3)を市長に提出しなければならない。ただし、市長が特別の理由があると認める場合は、この限りでない。

2 市長は、観覧料の減免を承認したときは、観覧料減免承認通知書(様式第4)により、申請者に通知するものとする。

(平7教委規則9・平14教委規則6・一部改正)

(観覧料の割引)

第7条の2 条例第4条第3項の規定により観覧料の割引をすることができる場合は、次のとおりとする。

(1) 他の観光施設等の管理者等と共同で発行する共通割引券を利用して観覧する場合

(2) 企画展覧会を行う場合において、前売り観覧券を利用して観覧する場合

(3) その他美術館の利用を促進するものとして特に必要と認める場合

(平19教委規則6・追加)

(招待券の発行)

第8条 教育委員会は、必要があると認めるときは、招待券を発行することができる。

(講義室等の利用許可申請の手続等)

第9条 条例第5条第1項の規定により講義室等を利用しようとする者は、利用しようとする日の前7日から6月までの間(陶芸創作室にあっては、利用しようとする日の当日から前6月までの間)に、高浜市立公民館の管理及び運営に関する規則(昭和55年高浜市教育委員会規則第6号。以下「公民館規則」という。)に定める高浜市教育施設利用許可申請書を教育委員会に提出しなければならない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

2 教育委員会は、講義室等の利用を許可したときは、公民館規則に定める高浜市教育施設利用許可書を申請者に交付するものとする。

3 講義室等の利用の許可を受けた者(以下「講義室等の利用者」という。)は、講義室等を利用する権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

4 講義室等の利用者は、許可事項を変更し、又は取り消そうとするときは、公民館規則に定める高浜市教育施設利用変更許可申請書又は高浜市教育施設利用取消承認申請書に第2項の許可書を添付して教育委員会に提出し、その許可又は承認を受けなければならない。

(模写等の許可申請の手続等)

第10条 条例第5条第2項の規定により美術館資料の模写、模造、撮影、熟覧等(以下「模写等」という。)をしようとする者は、美術館資料模写等許可申請書(様式第5)を教育委員会に提出しなければならない。

- 2 前項の場合において、美術館資料が寄託されたものであるときは当該寄託者の同意を得た書面を、他に著作権者があるものであるときは当該著作権者の同意を得た書面をそれぞれ必要に応じて添付しなければならない。
- 3 教育委員会は、美術館資料の模写等を許可したときは、美術館資料模写等許可書(様式第6)を申請者に交付するものとする。
- 4 美術館資料の模写等は、館内の所定の場所において、係員の指示に従って行わなければならない。

(利用後の原状回復)

第11条 講義室等の利用者は、講義室等の利用を終了し、又は中止したときは、利用した設備、備品等を原状に復しておかななければならない。

- 2 美術館資料の模写等の許可を受けた者は、美術館資料の模写等を終了し、又は中止したときは、係員の点検を受けなければならない。

(遵守事項)

第12条 美術館の入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 許可なく美術館資料等に触れないこと。
- (2) 美術館資料等の近くでインク等を使用しないこと。
- (3) 所定の場所以外で喫煙又は飲食をしないこと。
- (4) 危険物を持ち込まないこと。
- (5) 他の入館者に迷惑をかけること。
- (6) その他管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(図書等の閲覧)

第13条 資料室の図書、文献その他の資料(以下「図書等」という。)を閲覧しようとする者は、館長に申し出なければならない。

- 2 図書等の閲覧は、資料室で行わなければならない。

(美術館資料の館外貸出し)

第14条 美術館資料は、次の各号のいずれかに該当する場合に限り、貸し出すことができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項の規定による博物館及び同法第29条の規定による博物館に相当する施設に貸し出す場合
 - (2) その他教育委員会が特別の理由があると認める場合
- 2 前項の規定により美術館資料の貸出しを受けようとする者は、美術館資料借用申込書(様式第7)を教育委員会に提出しなければならない。この場合において、教育委員会は、展示室等の図面その他必要と認める書類を添付させることができる。
 - 3 教育委員会は、美術館資料の貸出しを承諾したときは、美術館資料貸出承諾書(様式第8)を申込者に交付するものとする。
 - 4 美術館資料の貸出期間は、3月以内とする。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(美術館資料の寄贈)

第15条 美術館資料の寄贈をしようとする者は、美術館資料寄贈申込書(様式第9)を市長に提出しなければならない。

- 2 市長は、美術館資料の寄贈の申込みがあったときは、適当と認めるものについて、これを受納することができる。

- 3 市長は、美術館資料を受納したときは、美術館資料受納書(様式第10)を申込者に交付するものとする。
- 4 寄贈に要する費用は、寄贈者の負担とする。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(美術館資料の寄託)

第16条 美術館資料の寄託をしようとする者は、美術館資料寄託申込書(様式第11)を市長に提出しなければならない。

- 2 市長は、美術館資料の寄託の申込みがあったときは、適当と認めるものについて、これを受託することができる。
- 3 市長は、美術館資料を受託したときは、美術館資料受託証書(様式第12)を申込者に交付するものとする。
- 4 寄託に要する費用は、寄託者の負担とする。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。
- 5 天災その他避けることのできない理由により寄託された美術館資料に損失が生じた場合は、市長はその責めを負わない。

(審議会の部会長及び副部会長)

第17条 高浜市やきものの里かわら美術館運営審議会(以下「審議会」という。)の考古・工芸部会、美術部会及び普及部会にそれぞれ部会長及び副部会長を置き、委員の互選により定める。

- 2 部会長は、部会の事務を掌理する。
- 3 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるとき、又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(部会の会議)

第18条 部会は、部会長が招集する。

- 2 部会においては、部会長が議長となる。
- 3 部会は、半数以上の委員が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 4 部会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、部会長の決するところによる。
- 5 前条及び前各項に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、それぞれ各部会が定める。

(審議会の庶務)

第19条 審議会の庶務は、こども未来部文化スポーツグループにおいて処理する。

(平14教委規則7・平18教委規則2・平20教委規則5・平21教委規則3・一部改正)

(所掌事務)

第20条 美術館においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 美術館の施設及び設備の維持管理に関すること。
- (2) 審議会に関すること。
- (3) 美術館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (4) 美術館資料の調査研究に関すること。
- (5) 美術館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (6) 美術館資料の購入、貸出し、寄贈及び寄託に関すること。
- (7) その他美術館の庶務並びに学術及び芸術に関すること。

(平8教委規則5・全改、平10教委規則9・平11教委規則2・一部改正、平14教委規則7・旧第21条繰上・一部改正、平21教委規則1・一部改正)

(職制)

第21条 美術館に館長及び副館長を置く。

2 美術館に主幹、副主幹、主査、主任及び学芸員を置くことができる。

(平8教委規則5・一部改正、平14教委規則7・旧第22条繰上・一部改正、平18教委規則2・一部改正)

(職務)

第22条 館長は、館務を掌理し、美術館を代表する。

2 副館長は、館長の職務を補佐し、館長に事故があるときは、その職務を代理するとともに、美術館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

3 主幹は、上司の命を受け、特に指示された事務及び担当事務を掌理し、所属職員を指導する。

4 副主幹は、上司の命を受け、担当事務を掌理し、所属職員を指導する。

5 主査は、上司の命を受け、上司が命ずる事務を整理する。

6 主任は、上司の命を受け、上司が命ずる事務をつかさどる。

7 学芸員は、上司の命を受け、美術館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これに関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

(平8教委規則5・一部改正、平14教委規則7・旧第23条繰上・一部改正、平18教委規則2・一部改正)

(その他の職の職務)

第23条 美術館に第21条に規定する職の職員のほか、所要の職員を置く。

2 前項の所要の職員は、上司の命を受け、上司が命ずる事務に従事する。

(平8教委規則5・追加、平14教委規則7・旧第24条繰上・一部改正)

(指定管理者に関する規定の適用)

第24条 条例第14条第1項の規定により指定管理者に美術館の管理を行わせる場合においては、第2条第3項中「教育委員会は、必要があると認めるときは」とあるのは「教育委員会及び条例第14条第1項に規定する指定管理者は、必要があると認めるときは、協議により」と、第4条第2項及び第9条中「教育委員会」とあるのは「条例第14条第1項に規定する指定管理者」としてこれらの規定を適用する。

(平19教委規則6・追加)

(雑則)

第25条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理及び運営について必要な事項は、教育委員会が別に定める。

(平8教委規則5・旧第24条繰下、平10教委規則16・一部改正、平14教委規則7・旧第25条繰上、平19教委規則6・旧第24条繰下)

附 則

この規則は、平成7年10月7日から施行する。ただし、第4条、第6条から第9条まで及び第17条から第24条までの規定は、同年4月1日から施行する。

附 則(平成7年教委規則第9号)

この規則は、公布の日から施行し、改正後の第6条第5号及び第7条の規定は、平成7年11月1日から適用する。

附 則(平成8年教委規則第3号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則(平成8年教委規則第5号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第9号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第12号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第16号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成11年教委規則第2号)

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則(平成11年教委規則第5号)

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則(平成14年教委規則第6号)

(施行期日)

1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正後の高浜市やきものの里かわら美術館の管理及び運営に関する規則(以下「改正後の規則」という。)の規定は、この規則の施行の日以後の観覧に係るものから適用し、同日前の観覧に係るものについては、なお従前の例による。
- 3 この規則の施行の際現に改正前の高浜市やきものの里かわら美術館の管理及び運営に関する規則の規定に基づいて作成されている常設展観覧券で残存するものについては、改正後の規則の規定にかかわらず、当分の間、使用することができる。

附 則(平成14年教委規則第7号)

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則(平成17年教委規則第4号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成18年教委規則第2号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年教委規則第3号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年教委規則第6号)

この規則は、平成19年10月1日から施行する。

附 則(平成20年教委規則第5号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成21年教委規則第1号)

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成21年教委規則第3号)
この規則は、平成22年1月1日から施行する。

(様式省略)

平成 23 年度
高浜市やきものの里かわら美術館 年報

平成 24 年 6 月
編集・発行／高浜市やきものの里かわら美術館
〒444-1325
愛知県高浜市青木町九丁目 6 番地 18
TEL (0566) 52-3366
FAX (0566) 52-8100